

平成30年度 事業報告・ささえあい活動事例集



私たちが創るあだち、
安心して暮らせる、
支えあいのあるまち

この報告書では、社会福祉協議会を「社協」、地域包括支援センターを「包括センター」、絆のあんしんネットワーク連絡会を「絆のあんしん連絡会」と省略して記載している箇所があります。

報告書に掲載している写真は、本人の了解をいただいています。

はじめに

平成 30 年度報告書の発刊に寄せて

本報告書では、第2次足立区地域福祉活動計画の取り組み状況と平成30年度のささえあい活動事例を報告させていただきます。この計画は、平成27年度から6年間で計画期間とする、住民の福祉活動に関する計画です。

昨年度は、計画期間の折り返しの年であり、足立区社会福祉協議会では平成30年度からの3年間を対象とした「後期アクションプラン」を策定しました。区民の皆様や地域団体、地域福祉研究委員会委員のご協力のもと、策定後初年度においても、住民主体の福祉活動に広がりが見えてきております。

また、平成30年度より地域包括ケアシステムの推進を図るために、足立区社協職員を区内地域包括支援センターの圏域(5ブロック)に分けて配置した新たな社協職員地区担当制を開始しました。前述した「後期アクションプラン」とも連動させながら、今まで以上に足立区社協職員が地域と密着した形で取り組みを進めていければと思っております。

こうした活動や事業の積み重ねは、すべて足立区の地域福祉の前進を示すものであり、ひとえに日頃から活動に携わっておられる住民の皆様、関係機関の方々のご尽力の賜物と感謝申し上げます。この報告書が皆様の活動の参考となり、足立区のささえあい活動のさらなる飛躍の一助となれば幸いです。

平成から令和へと新たな年の幕開けと共に、今後も足立区社協職員一丸となりまして、住民、関係機関の皆様と計画の推進に取り組んでいければと思います。

2019年9月

足立区社会福祉協議会
常務理事 大高 秀明

目次

1	本報告書について	1
2	取り組みの結果	5
3	社協職員地区担当制業務の取り組み	23
4	2019年度の方針	31
5	ささえあい活動事例集	35
	用語集	109

1 本報告書について

(1) 本報告書の位置づけ

平成 27 年 2 月、住民による小地域福祉活動やボランティア活動を発展させていくため、第 2 次足立区地域福祉活動計画（以下「計画」）が策定されました。足立区社会福祉協議会（以下「足立区社協」）は、この計画に基づき、住民の活動の推進・支援を行っています。

この報告書は、**計画がどのように取り組まれているか**を見える形にし、住民の皆さんに今後の活動の参考にしていただくことを目的として、平成 30 年度の足立区社協の取り組みの結果及び住民活動の様子を報告するものです。

(2) 計画の概要

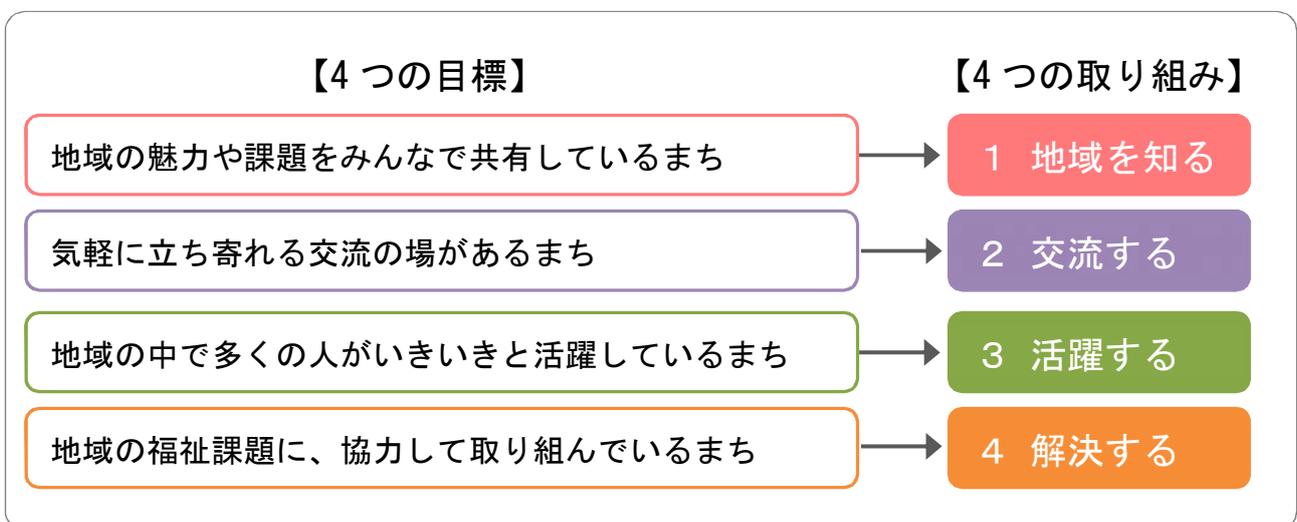
基本理念は「私たちが創るあだち、安心して暮らせる、支えあいのあるまち」です。

計画では、地域での付き合いの減少や孤立が問題となるなかで、「**踏み出そう 遊び心で、活かそう あなたの力!**」(基本方針)を合言葉に、住民の“**地域参加**”を図っていくこととしています。

【目標を実現するための 4 つの取り組み】

計画の大きな取り組みの柱は、「地域を知る」、「交流する」、「活躍する」、「解決する」、の 4 つです。

この報告書では、「2 取り組みの結果」（5～15ページ）で、足立区社協の取り組みの実績を示しています。また、「4 ささえあい活動事例集」（35～108ページ）では、平成 30 年度に公開した地域活動レポートを、地区ごとに分類して掲載しています。



【進め！あだちプロジェクト】

「目標を実現するための4つの取り組み」を“後押し”するため、足立区社協が住民の皆さんと一緒に取り組む「進め！あだちプロジェクト」を計画に位置付け、積極的に推進しています。

平成29年度に行った中間評価を経て、活動計画後期にさらに目標を達成するための活動を推し進めるため、プロジェクトの各プログラムについて、より具体的に取り組む内容について「後期アクションプラン」として位置づけました。

この報告書では、「2 取り組みの結果」では、後期アクションプランに基づいた取り組みの実績を示しています（16～21ページ）。

【目標を実現するための4つの取り組み】



後押し

【進め！あだちプロジェクト 後期アクションプラン】

プロジェクト1 地域の情報、発信・共有

住民自身が地域のニュースやリポートを柔軟かつ楽しい形で伝え、地域の情報を共有していくような仕組みをつくります。

プロジェクト2 活動への参加促進

ボランティア活動等の担い手同士がつながって、活動の紹介やコーディネートをしていく仕組みをつくります。

プロジェクト3 小地域、みんなで連携

区の地域ケアや孤立防止の取り組みと連動して、小地域における福祉課題解決の仕組みをつくっていきます。

（3）計画推進の体制と進捗状況

計画では、足立区社協に設置した地域福祉研究委員会を活動の推進・評価機関と位置づけています。

平成30年度からの後期アクションプランでは、地域福祉研究委員会が中心となりプロジェクト3 小地域、みんなで連携を進めるための取り組みを行っています（23～29ページ）。

2 取り組みの結果

目標を実現するための取り組み1

地域を知る

住民の視点を活かした情報提供や、学びの機会をつくります

(1) 福祉出前講座の提供

住民自身の地域福祉の学びと活動を支援するため、足立区社協職員などを講師として計94回派遣し2,890人の方々を対象に福祉出前講座を実施しました。

項目	27年度	28年度	29年度	30年度
地域福祉入門	34回	49回	39回	43回
ボランティア入門	9回	4回	2回	4回
介護入門	20回	16回	12回	17回
老い支度・権利擁護	28回	23回	36回	28回
体験講座	2回	6回	3回	2回
計	93回	98回	92回	94回

福祉出前講座から男性が活躍する地域の交流の場を立ち上げた

平成30年5月25日に開催された地域包括支援センター扇の絆のあんしん連絡会（男性の社会参加・居場所づくりがテーマ）にて、社協・地域福祉課の職員が、出前講座の中でふれあいサロン支援事業を紹介させていただきました。

絆のあんしん連絡会の後に、参加していた男性たちから、「自分たちでサロンを立ち上げてみよう」と声が上がって始まったのが「ぐらんぱ扇」です。

ぐらんぱ（＝グランド・ファザー）の名前の通り、世話人はすべて男性です。男性の集まる場を作りたい！という目的で、男性に人気のマーじゃんを行うことにしたのですが、いざ始まってみると参加者の多くは女性でした。「男性スタッフが初心者にも分かりやすく丁寧に教えてくれる」、そんな情報はあつという間に地域に広がり、今や毎回30人近くが集まる大人気のサロンです。

【ぐらんぱ扇】

毎週水曜（第5を除く）13：30～15：30

ゆうあいの郷・扇にて開催



(2) 社協の広報

① 社協だより「ささえあい」

より多くの方々に足立区社協の活動を知ってもらい、「一緒に活動してもらおう」、「会員として応援してもらおう」をコンセプトに、足立区社協をもっと身近にそして活用していただけるような紙面構成として事業や取り組みを特集しました。

また、第55号より「まちの根っこわーく」コーナーをささえあいリポーターに担当していただくことで、区民目線で親しみやすい情報をお届けしました。

号数（発行部数／発行月）	テーマ/サブタイトル
第52号（26,000部／7月）	2025年問題/どうなる？わたしたちの暮らし
第53号（27,500部／10月）	女子力アップ/地域で活躍する女性ボランティア大集合
第54号（26,000部／12月）	ささえあい検定/あだちの地域福祉のことがもっと分かる
第55号（26,000部／3月）	トリセツ/あなたの知りたい情報をお届けします

② フェイスブック

足立区社協のイベント、講座、研修、職員募集のお知らせや経営状況などの報告ほか、登録団体の活動の様子や地域での講座、イベント情報を発信しました。

項目	27年度	28年度	29年度	30年度
フォロワー数(人)			175	264
投稿回数(回)			92	157

※ 平成29年10月1日よりフェイスブックの運用を開始しました。

(3) 「ささえあいブログ」の発信

足立区社協ホームページに設置している「ささえあいブログ」で、地域の活動の様子を伝える「地域活動レポート」を計67件発信しました。

項目	27年度	28年度	29年度	30年度
地域活動レポート数(件)	41	73	68	67

地域福祉活動フォーラム開催に向けての地域見学

平成30年度の地域福祉研究委員会では、第2次地域福祉活動計画「進め！あだちプロジェクト3 小地域、みんなで連携」の後期アクションプランに基づき、次年度にグループごとで開催する地域福祉活動フォーラムの開催に向けて動き始めました。

その前段として、平成30年度には、住民主体の地域活動をグループごとに見学して、その見学の報告会を地域福祉活動フォーラムとして位置づけて開催しました。

活動見学を通して、委員の方々からは、「自分の予想以上に地域には様々な活動があることが分かりました」「自分の活動以外にも目を向けるいい機会になりました」などの感想をいただきました。このことをきっかけに委員同士の交流も生まれ、とても有意義な見学となりました。※グループは、包括センターのブロック単位で、中部千住、東部、西部、北部の5グループに分かれています。



六木診療所を見学。診療所の職員から様々な話を伺うことができました



子育てカフェ
“eatoco（イイトコ）”を見学中

目標を実現するための取り組み2

交流する

地域のなかに、気軽に立ち寄れる交流の場をつくります

(1) ふれあいサロンの立ち上げ・運営支援

地域で気軽に集まれる居場所づくり、仲間づくりのサロン活動を支援しました。

項目	27年度	28年度	29年度	30年度
登録数(カ所)	80	106	130	138
(内訳)				
高齢者サロン	65	90	114	122
障がい者サロン	1	1	1	1
のびのび親子ひろば	14	15	15	15
新規登録数(カ所)	13	34	30	20
参加者数(延べ人数)	18,747	28,024	35,100	41,056
開催数(延べ回数)	975	1,543	1,898	2,323

※活動を終了するサロンがあるため、当該年度の「新規登録数」と前年度の「登録数」を足しても当該年度の「登録数」と一致しません。

交流の場を広げるための交流会準備

ふれあいサロンは地域での見守りや、どなたでも参加できるような居場所づくり・仲間づくり活動をしています。今年度は各地域のサロンを中心とした交流会がサロンのスタッフや参加者を主体として行われていました。

サロンに参加している住民同士のつながりも大切ですが、サロン同士がつながり合うことで、今まで以上にサロン活動が推進していけるのではないかと考えています。足立区社協はその運営や活動の後押しをしています。



サロン運営について、意見交換中

中 部 「ふれ愛サロンまつり」

包括センター関原管内の12カ所のサロンが集まって催されました。地域住民や福祉事業所の職員なども参加し、サロン体験やサロンによる生バンド演奏を楽しんでいました。



千 住 「男活交流会」

男性の社会参加推進を目指し、男性を中心に活動する団体同士の交流会として開催されました。複数団体で活動するからこそ、できることを考える豊かな議論の場となりました。



西 部 「西新井地域ふれあいサロン交流会」

昨年度から開催している交流会です。サロンへの参加が介護予防になるという講座や脳トレ体操、各サロンの紹介・体験ブースなどがあり、多くの来場者で盛り上がりました。



北 部 「保木間地域ふれあいサロン交流会」

活動10年を超えるサロンと新しいサロンが交流会に参加しました。運営に関するノウハウの共有や活動報告を聞き、モチベーションの維持に有意義な場となりました。



目標を実現するための取り組み3

活躍する

地域福祉活動に参加できる機会をつくります

(1) ボランティアに関する各種講座の開催・コーディネート

①ここあだちカレッジ

地域で活動したい住民の方向けに、福祉総合講座として「ここあだちカレッジ」を開催しました。修了者を次の活動につなげられるよう、組織化支援にも力を入れています。

項目	27年度	28年度	29年度	30年度
受講者数【春コース】(人)	33	38	33	43※
受講者数【秋コース】(人)	47	19	23	

※30年度は「昼・夜コース」として開催。

②コーディネート事業

ボランティアをやりたい、やってほしいなど、ボランティア活動に関する各種相談を受け、一人ひとりの要望に合わせて活動紹介（マッチング）、情報提供などを行いました。

項目		27年度	28年度	29年度	30年度
ボランティア登録	人数(人)	597	551	603	606
	団体数(団体)	67	77	74	74
ボランティア参加者(延べ人数)		1,079	591	741	730

※「ボランティア参加者」数は平成28年度に集計方法を変更しました。

③ボランティアスクール事業

ボランティア活動への理解を深めるとともに、活動を推進するために講座を実施しました。入門講座として、ボランティア活動の入口や障がい者理解のための講座を開催しているほか、毎年テーマやターゲットを絞り、受講者がより実際の活動に繋がりやすいプログラムを企画しています。

項目	27年度	28年度	29年度	30年度
講座・講演会(回)	10	15	14	8

活躍の場を広げるための団体紹介&個別相談会（ここあだちカレッジ）

ボランティア活動の講座や地域活動紹介、体験を通して、今後の活動のきっかけとなればと、平成21年より開催されている福祉総合講座「ここあだちカレッジ」が平成30年度も10月1日～12月15日の日程で開催されました。

無事、34の方が修了を迎えましたが…

実際にボランティア活動、地域活動を始めするには「活動を知る」「活動への参加を決める」「活動する」という大きなハードルがあります。

そこで、今回は実際に活動をしているボランティア団体や、ボランティアを募集している団体などに来ていただき、担当者から直接、活動の様子を聞いたり、その場で活動を決めてもらうことも出来る「ボランティア団体活動紹介&個別相談会 in ここあだちカレッジ」を催しました。

せっかく、たくさんの団体などをお呼びしたので、ここあだちカレッジの修了者だけではなく、広く区民の方にも呼びかけるため、ボランティアスクールとしてオープンな形で実施しました。

当日は多くのここあだちカレッジ修了生と区民の方が参加され、担当者による活動紹介に続き、個別の相談ブースではより詳しい話を聞こうと熱気のある会になりました。

その場で体験の約束をしたりするなど、依頼側と活動側の橋渡しとなりました。

この会から多くの活動者が生まれ、地域の活動も活発になることを期待しています。



説明を真剣に聞く参加者



熱心に話を聞く活動希望者



会場の様子

(2) あったかサポートの運営

高齢者や障がい者の利用会員が在宅生活を続けられるよう、協力会員による家事援助を実施しました。また、協力会員の活動に必要な技術・知識の向上を目的に各種講座を行いました。

	項目	27年度	28年度	29年度	30年度
会員数	協力会員数（人）	281	305	254	272
	利用会員数（人）	341	394	335	274
研修等	協力会員登録説明会（回）	12	6	5	12 (うち、個別7)
	協力会員フォローアップ研修（回）	4	5	3	2
実績	サポート提供時間（時間）	11,839	11,556	9,272	6,926

(3) ファミリー・サポート・センター事業の運営

足立区からの委託を受け、保育施設などへの送迎や提供会員宅での一時預かりなど、地域で子育ての援助を受けたい方（利用会員）と子育ての援助を行いたい方（提供会員）による会員制の住民相互援助活動を実施しました。

また、会員相互の情報交換を図るために交流会などを開催しました。

	項目	27年度	28年度	29年度	30年度
会員数	提供会員数（人）	492	505	464	458
	利用会員数（人）	2,088	2,300	2,475	2,527
交流会等	提供会員登録説明会（回）	6	5	5	5
	提供会員登録時研修（回）	2	2	2	2
	利用会員登録説明会（回）	14	14	12	12
	交流会、研修会（回）	3	5	9	9
実績	活動時間（時間）	13,306	13,675	13,375	12,630
	活動件数（件）	10,586	10,932	10,754	10,089

目標を実現するための取り組み4

解決する

様々な住民団体で協力して取り組みます

(1) 社会福祉法人連絡会

足立区社会福祉法人連絡会は、複雑多様化する困難な福祉ニーズや制度の狭間の問題などに社会福祉法人が連携し、それぞれの持つ力を活かして取り組んでいくことを目的に平成29年8月31日に設立しました。足立区に法人本部を置く社会福祉法人並びに足立区で活動する事業所で構成（会員数115人）され、地域の課題に応じた取り組み（地域公益活動）として、子ども広場「おれんちハウス」やクリスマス子ども食堂などを実施しています。

連携力を高める第一歩の取り組み（足立区社会福祉法人連絡会）

「会員連携を一層高めるための取り組み」として、「顔の見える関係づくり」を目的に、足立区社会福祉法人連絡会第1回勉強会を開催しました。

勉強会では、52人の方にご参加いただき、「地域公益活動と連携について考える」と題した基調講演のほか、実際に地域公益活動に取り組んでいる社会福祉法人3法人（高齢・障がい・児童）から実践発表をしていただき、そこから見えてきた課題や取り組むべき事柄などについてグループワークを行いました。グループのなかには、子どもが安心して過ごせる地域の居場所づくりとして「子ども食堂」の立上げを進めていく話し合いやイベント・バザーなどで今後連携を進めていく法人もあり、連携力を高める「地域ごとのつながり」が芽生え始めました。今後も継続して、地域ごとの勉強会（情報交換会）を重ね、地域の民生委員や町会、包括センターなどと連携して、更なる活動に繋がっていきけるように取り組んでいきます。



多世代交流のための保育園と高齢者施設によるイベント

社会福祉法人連絡会第1回勉強会の中で新田保育園の園長先生より、「地域に向けた取り組みを広めていきたい」といった相談をいただきました。足立区社協職員より、新田地域内で地域とのつながりを目指した取り組みに力を注いでいるサービス付き高齢者向け住宅「そんぽの家S王子神谷（以下、『そんぽの家』）」を紹介し、顔合わせの場を設けました。

両施設ともに「多世代交流」という共通の思いがあり、そんぽの家を会場にした交流イベントを開催することとなりました。

交流会の当日は、園児達による太鼓の演奏、皆で童謡「ふるさと」を合唱、フリータイムでの交流と内容も盛りだくさんのイベントとなりました。

双方の施設から、継続して交流を図りたいといった思いを聞いています。新田地域で多世代交流の輪が広がっていけるよう後押ししていきたいと思えます。



地域みんなで集まることのできる子ども食堂を開催

綾瀬あかしあ園（社会福祉法人あいのわ福祉会）が近隣の施設に声をかけ、地域の人みんなで集まることのできる子ども食堂「あやせ もりのひろば」の活動がスタートしました。付き合いのあるふれあいサロンむつみ会の代表が普段から口にしてきた「子どもも障がい者も高齢者もみんなが集える場をつくりたい」という声を受けてのことでした。

初回の顔合せ（平成30年12月26日）から、わずか3カ月の間に、小学校や町会・自治会、民生委員、保健所や区の関係各課に精力的にあいさつ回りと相談を行い、3月20日、無事プレ開催しました。これから地域への定着が楽しい活動です。



【参加団体】

ふれあいサロンむつみ会

小規模多機能ホーム スマイルぷらちな（特定非営利活動法人ぷらちなくらぶ）

綾瀬ひまわり園・綾瀬なないろ園（社会福祉法人あだちの里）

綾瀬あかしあ園（社会福祉法人あいのわ福祉会）

地域の情報、発信・共有

住民自身が地域のニュースや
リポートを柔軟かつ楽しい形で伝え、
地域の情報を共有していくような仕組みをつくります。

後期アクションプランでの取り組み

- ・リポーターの活動の幅を増やし、さらに地域住民の発信の機会を増やします。
- ・リポーター同士が楽しく活動に取り組めるよう、仲間づくりの支援を行います。
- ・社協の広報がより親しみやすくなるよう、リポーターによる区民目線を取り入れます。
- ・幅広い世代で SNS（※）の活用が広がるよう、パソコンやインターネットについて学べる機会を提供します。

具体的な展開のイメージ

2018年度	2019年度	2020年度
<ul style="list-style-type: none"> ・リポーターによるまち歩き取材 ・社協広報モニタリング 	<ul style="list-style-type: none"> ・リポーターの組織化 ・社協広報モニタリング ・区民に向けた SNS などの活用講座の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・社協広報モニタリング ・区民に向けた SNS などの活用講座の開催
リポーター 10人 リポート・記事数 15本	リポーター 15人 リポート・記事数 25本	リポーター 20人 リポート・記事数 35本

※SNS…社会的なネットワークづくりを促進するインターネット上のサービスのことです。代表的なものに Facebook（フェイスブック）や LINE（ライン）、Twitter（ツイッター）などがあります。近年、各企業や自治体で利用が進んでいます。

平成 30 年度の取り組み

ささえあいリポーターの活動の充実

今年度は、ささえあいリポーターの交流やイベントの集団取材などリポーター同士の仲間づくりや交流を主に活動をしました。

また、新たな試みとして社協広報モニタリングを行いました。より区民の方々に興味、関心を持っていただけるような広報紙となるよう、サロン通信「ふれあい」を題材にしながら区民目線でのご意見をいただきました。

項目	平成 30 年度
リポーター数	10人
リポート記事数	13本
交流会	4回

▶ 主な取り組み

【NPO フェスティバル集団取材】



集団取材のリポーター

日時：平成 30 年 10 月 6 日（土）
会場：足立区役所アトリウム
目的：1つのイベントを多視点で取材をするとともに
ささえあいリポーター同士の関係を深める
内容：ステージ発表、ブース出展、販売などへの取材
参加者：3人

【ささえあいリポーター交流会～レポート講座～】

日時：平成 30 年 12 月 19 日（水）
会場：総合ボランティアセンター会議室
目的：①取材の心得やスキルについて学ぶ
②ささえあいリポーター同士の情報交換を
する
③リポーター新規登録者と既存リポーターと
の交流
内容：取材交渉や撮影技術に関する講義、意見交換
参加者：7人



社協広報紙「ささえあい」掲載
に向けた写真撮影

【ささえあいリポーター交流会～広報モニタリング～】



広報紙のモニタリングを行い
意見を言い合います

日時：平成 31 年 2 月 13 日（水）
会場：基幹地域包括支援センター会議室
目的：社協の広報紙がより良くなるようリポ
ーターの目線での意見をもらう
内容：サロン通信「ふれあい」をモニタリング
参加者：5人

【ささえあいリポーターに関する取り組みの成果】

- ①ささえあいリポーター交流会を計 4 回行い、取材先決めや意見交換を行ったりと、リポーター同士の仲間づくりの場となりました。
- ②ふれあいサロン通信 1 面や社協広報紙ささえあい「まちの根っこわーく」など、ささえあいブログに掲載するレポート以外の広報紙への掲載が実現しました。

活動への参加促進

ボランティア活動等の
担い手同士がつながって、活動の紹介や
コーディネートをしていく仕組みを作ります。

後期アクションプランでの取り組み

- ここあだちカレッジやボランティアスクールなど地域デビュー講座を活用して、参加者が多様な地域の活動団体につながる取り組みを行います。活動者自身が講座の講師を担ったり、活動の紹介ができる講座を組むなど、関心が高まる企画を実施するため、地域の活動団体と一緒に取り組める企画会議を立ち上げます。
- 講座受講者が具体的な活動を体験できるような機会や、合同相談会等により多様な活動団体と活動希望者がつながれる場づくりを行います。
- 身近な地域での参加の仕組みができるよう、徐々に地域ごとでの企画を推進します。

具体的な展開のイメージ

2018年度	2019年度	2020年度
<ul style="list-style-type: none"> • 企画会議の立ち上げ • 地域デビュー講座の活用（団体活動紹介など） 	<ul style="list-style-type: none"> • 地域デビュー講座の活用（活動体験講座など） • 団体活動の合同見本市や合同相談会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> • 地域ごとでの実施（包括センター5ブロック圏域内で各1回程度）

平成 30 年度の取り組み

企画会議の立ち上げと検討

活動希望が高い 30～40 歳代女性をプロジェクトの対象とし、企画会議を立ち上げました。企画会議には、平成 30 年 3 月に開催した NPO 団体意見交流会の参加団体から 4 つが参加しています。

今年度は 4 回の企画会議を開催し、30～40 歳代女性の活動参加の要因や背景を検討して整理をしました。第 4 回目は企画会議メンバーの運営による公開の団体交流会（足立区 NPO 活動支援センターとの共催）を実施し、2019 年度に向けた足がかりとしました。

項目	平成 30 年度
企画会議	4 回

▶ 平成 30 年度 企画会議

【第 1 回】

日 時：平成 30 年 9 月 6 日（月）
17：00～18：30
会 場：エンブレムホステル西新井
内 容：①団体紹介、自己紹介
②現代の子育てママや 30～40 歳
代女性についての意見交換
参加者：9人



【第 2 回】

日 時：平成 30 年 10 月 16 日（火）
15：30～17：00
会 場：基幹地域包括支援センター
内 容：①30～40 歳代女性の地域活動参加についての意見交換
②企画のターゲットについての検討
参加者：7人

【第 3 回】

日 時：平成 30 年 12 月 4 日（火）
15：30～17：00
会 場：基幹地域包括支援センター
内 容：①意見の整理
②次回会議に向けた役割分担、方向性の確認
参加者：6人

【第 4 回（NPO 意見交流会）】

日 時：平成 31 年 2 月 14 日（木）
10：00～11：45
会 場：足立区 NPO 活動支援センター
内 容：①「進め！あだちプロジェクト2」
企画会議の説明
②企画会議メンバーの紹介
③グループでの情報交換
参加者：18人



【企画会議の成果】

- ①NPO団体や児童福祉施設、民間企業をコアメンバーとして4回の企画会議を開催し、30～40歳代の女性像などを話し合いながら、今後の企画や取り組みを考えるにあたっての対象やアプローチについて活発に意見交換ができました。
- ②第4回目の企画会議ではメンバーの主体的な運営により、他団体からの情報や意見を多く引き出し、次年度の具体的な取り組みに向けての方針を整理することができました。

小地域、みんなで連携

区の地域ケアや
孤立防止の取り組みと連動して、
小地域における福祉課題解決のための仕組みをつくっていきます。

アクションプランでの取り組み

- 多様な団体同士が交流したり、地域に周知できる機会をつくるため、社協がつなぎ支援を行います。
- 交流の場で地域の取り組みを発表したり、課題を共に考えることができる場として、地域福祉活動フォーラムを企画・開催します。
- より身近な地域でのネットワークが徐々に広がるよう、地域ごとでの開催を推進します。

具体的な展開のイメージ

2018年度	2019年度	2020年度
<ul style="list-style-type: none"> • 地域福祉活動フォーラムの企画・開催 <p>(区内で1回程度)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 地域福祉研究委員会をベースとしたフォーラムの開催 <p>(包括センター5ブロック圏域内で各1回程度)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • より多様な団体と連携したフォーラムの開催 <p>(包括センター5ブロック圏域内で各1回程度)</p>

平成30年度の取り組み

地域福祉活動フォーラムの開催

地域福祉研究委員会が5班に分かれて足立区社協地区担当職員とともに地域活動を見学し、その報告会を地域住民も交えて行いました。

また、テーマに応じてふれあいサロンや地域の活動団体、事業所、民間企業、公的機関など様々な団体との協働により、交流会型のフォーラムを3回開催しました。

(1) 「見つけた！地域のささえあい」(勉強会型)

日時：平成30年11月28日(木) 13:30～15:30

会場：特別養護老人ホーム花畑あすか苑

主催：地域福祉研究委員会

内容：①基調講演「花畑あすか苑の地域に向けた取り組み」
②研究委員会委員が見学した各地域の活動紹介

参加者：59人



(2) ワイワイ健康ひろば♪(交流会型)

日時：平成30年11月14日(水) 10:00~12:30
会場：イオン西新井店
目的：①イオン西新井店で活動する5つの団体間での交流を図る

②地域住民に活動を周知する

内容：ステージ発表、ブース出展、体操等

参加者：約80人

メンバー：足立ママサロン、コーチングバリュー協会、井上病院、アクサ生命
スポーツスタッキング



(3) 行こう！伊興☆みんなのひろば(交流会型)



日時：平成31年1月19日(土) 10:30~14:00

会場：神の家族主イエス・キリスト教会

目的：伊興、西竹の塚地域の住民や活動団体等のネットワーク構築と地域課題解決のきっかけづくり

内容：ステージ発表、活動紹介、測定コーナー、相談ブース
子どもの遊びコーナー、子ども食堂や障がい施設などの物販ほか

参加者：約180人

メンバー：神の家族主イエス・キリスト教会、コミュニティ koen、男の台所、あだち子ども食堂
いこう！ふれあいサロン、絆のあんしん協力員、地域包括支援センター伊興

(4) 東部人生ココから見本市(交流会型)

日時：平成31年2月9日(土) 12:00~16:30
会場：足立区勤労福祉会館
目的：定年退職後の男性が社会とのつながりを持ち続けることで孤立の予防を図る。地域の様々な人材に適した活躍の場を紹介することで地域活動の活性化を図る。

内容：講演、活動紹介ブース、相談ブース、体験コーナー、開始・終了時の出し物など
参加者：780人

メンバー：NPO法人足立ほがらかネットワーク、団塊綾瀬ネットワーク「だんだん」
NPO法人ASCC、東部ブロック包括センター(さの、東和、西綾瀬、中川)



【交流会型地域活動フォーラムの成果】

- ①多様な団体が企画段階から検討を重ねる過程を通して団体同士がつながり、フォーラム開催後も団体間の交流が生まれました。またフォーラム開催をゴールとするのではなく、生まれたネットワークを継続していく動きができました。
- ②企画に携わったコアメンバー以外にも多くの団体・企業・ボランティア等がフォーラムに出展や協賛、協力していただくことで小地域における福祉課題に対する多様なパートナーシップが生まれました。

3 社協職員地区担当制業務の取り組み

平成 30 年度からの地区担当制業務について

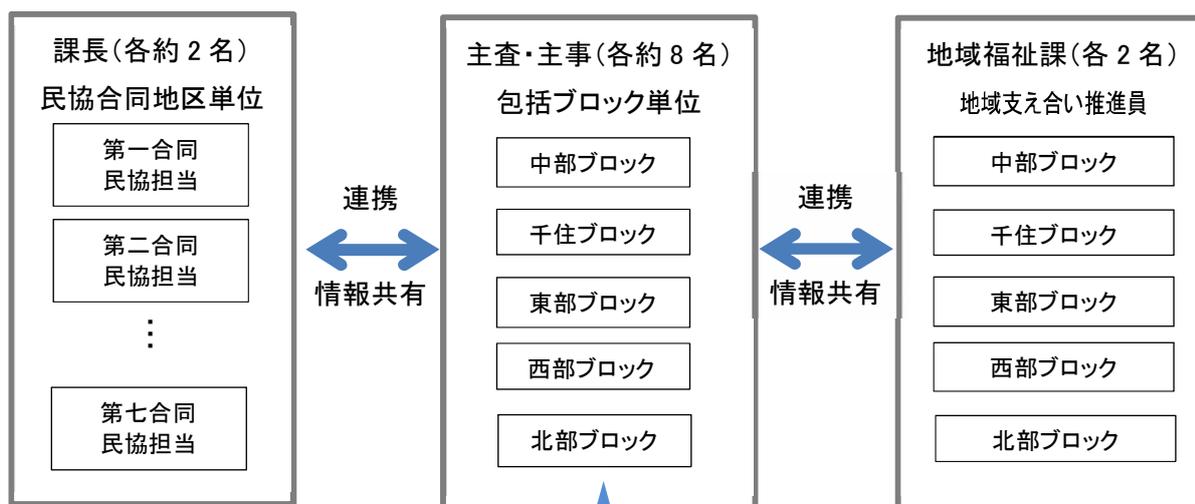
足立区社協が平成 24 年度から導入した職員地区担当制業務は、地域福祉活動計画の基本方針をふまえて、地域参加の促進（社会的孤立の防止や活動の活性化）に取り組んでいます。

■担当圏域

平成 30 年度からは、民生・児童委員協議会との連携を図るため従来の 7 グループ（民生・児童委員協議会合同地区単位）を課長級職員が引き続き担当し、地域包括ケアシステムの構築を推進する実働チームとして、主査以下の職員を 5 チーム（地域包括支援センターブロック単位）に分け、相互に連携を図りながら地域福祉を推進する体制としました。

■業務内容

5 つのチームでは、若手・中堅職員の育成を念頭に各チームが業務別に 2 班に分かれて下表の業務を行いました。



班	職 層	主な業務	具体例
A 班	主に 新任職員	アセスメント 活動の周知	<ul style="list-style-type: none"> 活動取材（レポート、フェイスブック） 課題分析 かわら版の作成・周知
B 班	主に 中堅職員	福祉学習 懇談会支援	<ul style="list-style-type: none"> 福祉出前講座の提供 研究委員会への出席、活動支援 地域福祉活動フォーラムの企画・開催支援

中部 グループ	氏名 加藤 和宏	氏名 桑原 清美	氏名 鈴木 正文
	氏名 高井 理紗	氏名 東 瑞恵	氏名 長手 裕子
	氏名 阿部 裕美	氏名 松尾 亜弥	氏名 石川 実季

(1) 業務概要

中部ブロックのエリアには、社協の管轄である基幹包括センターや包括センター関原があります。そこで今年度は包括センター関原のエリアのふれあいサロン（12カ所）を中心に訪問し、包括センター関原主催の交流会を支援するなど、地域住民との関わりを重視して活動しました。

(2) 活動実績

	内部会議	会議・行事参加	情報収集・取材	相談・打ち合わせ	出前講座	懇談会	その他
A班業務	1	1	13	1	1	0	1
B班業務	0	1	0	1	2	0	1
チーム会議	3	0	0	0	0	0	0
その他	0	2	0	0	0	0	0

(3) A班の取組

包括センター関原が開催したふれあいサロン交流会「ふれ愛サロンまつり」を支援する形でアセスメントをしました。交流会に参加するサロン（12カ所）へ訪問し、取材を兼ねて活動の進捗を把握しています。取材内容は、地域活動レポートや社協のFacebook記事にまとめ、地区の取り組みを足立区内外に周知しました。訪問を重ねることで、住民と包括センター・足立区社協との間で信頼感を高めることができ「ふれ愛サロンまつり」の開催という共同作業を達成することができました。



(4) B班の取組

中部ブロックの地域福祉研究会委員が代表を務めるふれあいサロン「梅田クラブ」と「子育てカフェ eatoco (イイトコ)」の活動を見学しました。

「梅田クラブ」は、納涼コンサートを見学しました。運営面や集客力の素晴らしさを目の当たりにしました。また、「子育てカフェ eatoco (イイトコ)」では、見学中にも子どもが気軽に立ち寄って遊んでおり、地域の子どもから高齢者まで地域の拠り所となっていることが分かりました。



2019年度の地域福祉活動フォーラムは、「ごちゃませ交流会（仮）」をテーマに様々な活動団体との交流会を目指します。

千住グループ	氏名 永島 学	氏名 田嶋 亮太郎	氏名 市岡 ゆき子
	氏名 時枝 久美子	氏名 山口 知子	氏名 加納 景子
	氏名 岡本 喜子	氏名 市川 敬子	氏名 添田 絵里香

(1)業務概要

A班、B班ともに、千住常東地域を対象にして、協力し合いながら業務を進めました。

10月に、千住常東地域の包括センター2カ所と地域福祉研究委員会のメンバーを交えて意見交換会を実施しました。その中で、千住は川で囲まれているため水害対策に危機感を感じている住民が多いことを知り、「防災」をテーマに地域のアセスメントなどを中心に行いました。

(2)活動実績

	内部 会議	会議・ 行事参加	情報収集 ・取材	相談・打 ち合わせ	出前講座	懇談会	その他
A班業務	6	1	5	2	0	0	2
B班業務	3	4	4	4	2	2	11
チーム会議	4	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0

(3)A班の取組

B班の職員と地域福祉研究委員会のメンバーと共に、千住常東地域のまち歩きを行いました。まち歩きでは、千住常東地域内の小・中学校や高層マンションなどを巡り、各々の備蓄状況や防災対策について聞き取りを行いました。聞き取った内容は地域の方々の目に届けるために集約して、「まち歩きのしおり」を作成しました。また、千住常東地域の地域活動レポート、ふれあいサロンの情報などを集約した「地域ささえあい活動事例集（常東編）」を作成し、夏祭りや企業が行うイベントに参加し、来場した地域住民に配付するなどして足立区社協のPR活動を行いました。



(4)B班の取組

千住常東地域の地域特性や住民が抱えるニーズを知るために、常東エリアの2カ所の包括センターに声を掛けて、意見交換会（以下、交換会）を開催しました。交換会では、地域の方々から当事者目線の生の声を聞くことができました。交換会の様子を地域活動レポートにして情報発信しました。ただ意見交換をして終わりにしないために、交換会で出た意見の中からテーマを「防災」に決めて、地域福祉研究委員会の委員の方々、A班と協力しながら、千住常東地域のまち歩きを実施しました。また、常東地域外ではありますが、千寿青葉中学校1年生90人を対象に、高齢者疑似体験の福祉出前講座を実施しました。



東部 グループ	氏名 下鳥 典子	氏名 小川 清子	氏名 戸谷 純代
	氏名 亀田 明子	氏名 大竹 光夫	氏名 坂田 京子
	氏名 佐藤 和子	氏名 川畑 彩	氏名 野呂 真一郎

(1) 業務概要

「進め！あだちプロジェクト」に位置付けられた住民参加の促進を受けて、ブロック内の子育て世代の活動情報を収集し、地域差などを分析しました。また、東部地域の人生ココから見本市の実行委員会に継続的に参加し、当日は出展者へのヒアリングなどの協力を行いました。

これらの活動の延長線で地域の多世代交流の活性化を促せるよう取り組んでいます。

(2) 活動実績

	内部会議	会議・行事参加	情報収集・取材	相談・打ち合わせ	出前講座	懇談会	その他
A班業務	6	13	7	3	0	0	0
B班業務	2	7	7	8	0	0	0
チーム会議	2	0	0	0	0	0	0
その他	0	3	0	0	0	0	0

(3) A班の取組

綾瀬、六木の児童館を訪問し、児童館の活動状況についてヒアリングを行いました。子育て中の母親が行う地域活動取材し、足立区社協のブログで紹介しました。

こうしてフィールドワークや資料収集で集めた情報を、(T) 東部 (O) 親子のための居場所 (F) 増やしたいなマップ (通称：TOF マップ※頭文字を並べて) にまとめました。

今後は、関連する情報の充実を図り、アセスメントを通じてより多くの参加促進につなげられるよう取り組んでいきます。



(4) B班の取組

六ツ木診療所を訪問し、院長から診療所の取り組みについて伺い、特別養護老人ホーム奉優の家に併設された「FOR YOU カフェ」で振り返りと次年度の検討を行いました。

また、地域福祉研究委員会委員が代表を務める「むつみ会」から派生した加平児童館の将棋教室取材しました。

東部ブロック地区担当や委員会の活動をかわら版（東部ニュース）にまとめて情報共有を図るなどに取り組みました。



西部 グループ	氏名 吉清 健太郎	氏名 阿部 耕平	氏名 佐藤 美穂子
	氏名 山内 佳代	氏名 野口 弘美	氏名 垣本 善孝
	氏名 安田 雅俊	氏名 川島 美穂	氏名 高橋 美紀

(1)業務概要

地域活動レポートで関わりがあった地域住民より「所有する畑が余っているので使いたいことがあれば声をかけて」と言われたのがはじまりでした。その畑の隣に 2019 年度に新たに障がい者施設ができることもあり、畑や施設の地域交流スペースを使った居場所ができないか、包括センター江北や地域住民と検討しました。新たにふれあいサロン「江北ベジサロン」を立ち上げることが決まりました。

(2)活動実績

	内部会議	会議・行事参加	情報収集・取材	相談・打ち合わせ	出前講座	懇談会	その他
A班業務	3	1	5	2	0	0	7
B班業務	2	4	1	1	0	0	2
チーム会議	3	0	0	1	1	2	0
その他	0	3	0	10	1	2	6

(3) A班の取組

畑周辺の町会・自治会に、高齢者が集まる場や活動についてヒアリングを行ったところ、メンバーの高齢化による老人クラブの廃止や、町会・自治会活動の縮小によって高齢者の既存の居場所が減っていることが分かりました。

また、高齢者の閉じこもり、孤立に対して課題を感じている町会・自治会も多く、これらを解決していくためにも、「高齢者の集まる場」の必要性は高いことが分かりました。

アセスメントの際に情報を得た、自治会が行う孤立・孤食対策の取り組みをレポート取材しました。



(4) B班の取組

包括センター江北の地域ケア会議（1月22日実施）絆のあんしんネットワーク連絡会（3月5日実施）に参加しました。畑の情報や居場所の必要性を参加者に訴えた結果、賛同者、協力者を募ることができ、「江北ベジサロン」の立ち上げにつながりました。

また、地域福祉研究委員と、「西新井地域ふれあいサロン交流会」、「関原不動商店街朝市」の見学を行いました。



北部 グループ	氏名 高橋 裕子	氏名 橋本 孝子	氏名 斎藤 勝代
	氏名 浮田 照予	氏名 小松 美幸	氏名 坂巻 由美
	氏名 中山 勝友	氏名 税所 義彦	氏名 矢作 祐太郎

(1)業務概要

以前よりこのグループでは、桑袋団地自治会を通じた足立特別支援学校とのつながりがあったことと、花畑地域に他2カ所の特別支援学校（南花畑特別支援学校、城北特別支援学校）があるという北部の特徴を活かし、A班は地域を知る入り口として、特別支援学校から見た地域とのつながりや地域に対する考え方などをアセスメントしました。

また、B班はA班との連動を意識し、地域福祉研究委員会の委員との活動見学や出前講座などを通じて、地域とのつながり作りやフォーラム開催に向けたイメージ作りをすることにしました。

(2)活動実績

	内部 会議	会議・ 行事参加	情報収集 ・取材	相談・打 ち合わせ	出前講座	懇談会	その他
A班業務	5	1	3	4	0	1	0
B班業務	23	4	3	12	1	0	2
チーム会議	5	0	0	4	0	0	0
その他	0	3	1	1	0	0	0

(3)A班の取組

A班は公開研修会（南花畑）や中・高等部の運動会（城北）、近隣の自治会との交流会（足立）といった学校行事に参加し、足立区社協と学校の関係づくりから始めました。

3つの学校で職員にヒアリングを実施し、アセスメントを通して、各校の地域に対する課題や期待を把握できたばかりでなく、学校の地域貢献活動についても情報を得ることができました。

3校共通して地域とのつながりを求めていることがわかり、学校と町会・自治会の懇談会や学校職員を講師とした勉強会などを開催することで、地域とつながるきっかけを作ることができるのではないかと考えました。



(4)B班の取組

B班は地域福祉研究委員会への出席を中心に、委員とのつながりを深め、委員と一緒に地域の活動見学をしました。

桑袋団地自治会のふれあいサロン「サロン桑袋」を見学し、運営スタッフや参加者の様子を見ながら、サロンの成り立ちや抱えている課題などを知ることができました。また、桑袋団地自治会には職員が福祉出前講座の出張もしました。

今年度最終回の地域福祉研究委員会では、A班の取り組みを委員に共有することで、「特別支援学校が地域に望んでいることを知り、何ができるか考えたい」という話になり、次年度のフォーラムについて検討することができました。



4 2019 年度の方針

(1) 第3次足立区地域福祉活動計画 策定の準備

現計画（第2次足立区地域福祉活動計画）の計画期間は、2015年度から2021年度までの6年間です。次年度に計画期間が終了するため、2019年度から策定作業を行います。

2019年度に行う策定作業

策定作業	摘要
①社協職員プロジェクトチームによる検討	②～④の作業に関する検討、第3次計画に向けた論点整理などを行います。
②第2次計画の評価	地域福祉研究委員会による評価のほか、足立区社協職員による評価、第2次計画の取り組みである「進め！あだちプロジェクト」に参画している区民による評価を行います。
③区民アンケート調査	課題と取り組みの検討資料とするため、区民の地域瀬活の状況及び意識等に関する調査を行います。また、この調査結果と統計データをあわせて基礎調査報告書をまとめます。
④第1回地域福祉活動推進委員会の開催	策定委員会の役割を担う地域福祉活動推進委員会を招集し、検討を始めます。

(2) ふれあいサロン支援事業 新規助成金制度による地域連携の促進

2019年度、歳末助け合い募金の配分金を財源としたふれあいサロンの助成金を新設します。助成内容は、以下の3種類です。

ふれあいサロン支援事業 新規助成金

新規助成金の種類	摘要
①研修・イベント助成	サロンの運営などに関する自主研修や周知のためのイベントに対して助成します。
②機能強化助成	既存の活動に加えて始める、新しい取り組みに対して助成します。
③連携・交流活動助成	地域の他団体と連携して行うイベントなどの活動に対して助成します。

これらの助成を通してふれあいサロンの参加者の増加や活性化を図り、ふれあいサロンの目的である、仲間づくり、居場所づくり、生きがいづくりをより一層推進していきます。

特に、③連携・交流活動助成は、町会・自治会、NPO 団体、事業所など多様な団体との連携により小地域のネットワークづくりを促進するための戦略的な取り組みです。

(3) 進め！あだちプロジェクト後期アクションプランの推進

➤ その1「地域の情報、発信・共有」プログラム

多様な活躍の場の提供・創出

平成30年度は、ささえあいリポーターの通常の取材に加え、複数人で1つのイベントを取材する集団取材や社協広報紙をより良い広報媒体にするための広報モニタリングを試験的に行いました。また、交流会を4回開催し、ささえあいリポーター同士の関係づくりを深めることができました。

2019年度は、ささえあいリポーターの活動の拡充を目指し、ささえあいリポーターを広く募集します。また、地域の高齢者向けのSNSやスマホ講座を企画段階からささえあいリポーターに担ってもらい、開催を目指します。

➤ その2「活動への参加促進」プログラム

参加の入り口づくりのための講座開催

平成30年度は、企画会議を立ち上げ、会議での検討をふまえて交流会を開催することができました。会議や交流会では、活発な意見交換で30～40歳代女性の多様性を確認できました。

地域デビュー講座などを活用した活動参加の入り口づくりは2019年度の課題として残りました。メンバーの拡充や企画会議での検討をふまえて、2019年度は当事者の参加の入り口づくりが団体のPRの場にもなるように、意見交換や情報共有できるような形での講座を開催します。

また、これまでに出た意見の実現を図ることで、さらなる参加促進を目指します。

➤ その3「小地域、みんなで連携」プログラム

地域福祉活動フォーラムの開催

平成30年度は、地域福祉研究委員会での勉強会型の地域福祉活動フォーラム(以下、フォーラム)を1回、ふれあいサロンや地域の活動団体、事業所、民間企業、公的機関など多様な地域団体との協働による交流会型のフォーラムを3回開催しました。一度きりの開催ではなく、それぞれが今後につながる関係をつくることができました。

2019年度は地域福祉研究委員会が中心となり、地域団体との連携によるフォーラムを5ブロックに分かれて地域ごとに開催します。地域ごとに、地域の生活課題の解決や魅力を高めるなどの取り組みについて話し合い、フォーラムを通じてさらに多くの区民と共有して地域づくりを行っていきます。住民が主体となった地域づくりのいとぐちとなるよう取り組みます。

4 ささえあい活動事例集

ここに掲載した事例は、平成30年4月1日～平成31年3月31日の間に、足立区社協「ささえあいブログ」に掲載した「地域活動レポート」をまとめたものです。



足立区社協ささえあいブログQRコード

団体の名称・情報は、取材当時のものです。現在は、変更になっている場合があります。

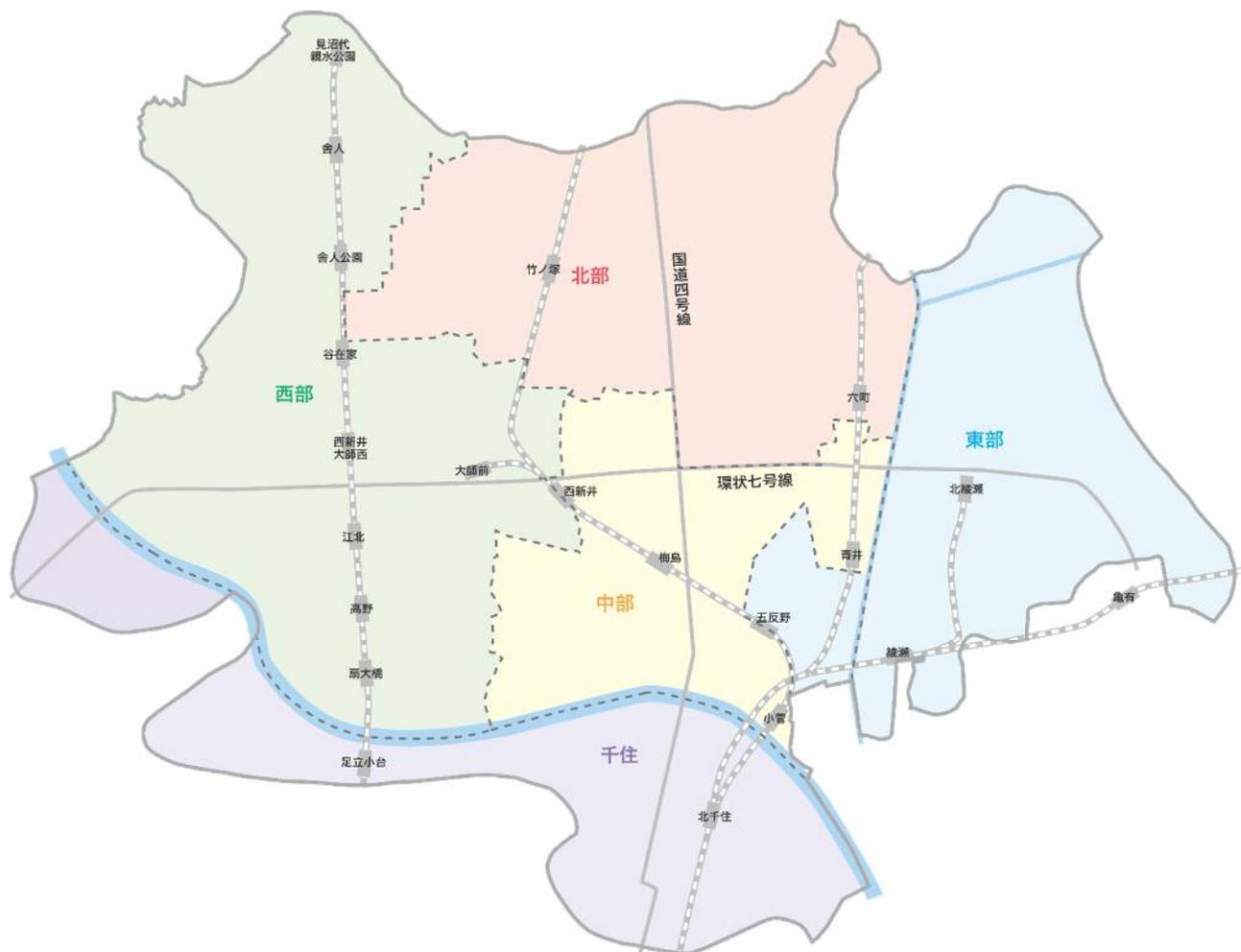
本冊子にまとめるにあたり、「ささえあいブログ」掲載時の文章を一部変更した箇所があります。

事例に関するお問い合わせは、以下へお寄せください。

社会福祉法人足立区社会福祉協議会
基幹地域包括支援センター 地域福祉課
電話 03-6807-2460 Fax 03-5681-3374

事例の地区分類について

事例は、地域包括支援センターのブロック別に収録しています。
地域包括支援センターは、足立区から委託を受けた公的な高齢者の総合相談窓口です。
区内25カ所に設置された包括センターは、担当地域により、5つのブロック（中部、千住、東部、西部、北部）に区分されています。



「ささえあいリポーター」作成の記事について



このマークが入った記事は、区民記者「ささえあいリポーター」（16、17ページ）が作成した記事です。

事例集の目次

【中部】

(取材日順)

タイトル	分類	取材地	頁
ふれあいサロン“本関らくらくサロン”／住み慣れた地域で体操を続けていこう！	解決する	関原	41
ふれあいサロン“楽楽サロン梅田”／「体操」から色々な「やってみたい」を発見！	交流する	関原	42
NPO 法人グランファミリア×mogmog ほうす／地域共生社会へ～第1回あだちパン祭り～	交流する	梅島	43
ふれあいサロン“わかば健康クラブ”／みんなで作り上げる体操サロン	解決する	梅田	44
ふれあいサロン“笑楽絆サロン”／「地域の誰でも立ち寄れる場」を目指して	交流する	関原	45
NPO 法人“あだちママカフェ”／折り紙でつながる交流の輪	地域を知る	梅田	46
梅田地域 ふれあいサロン／梅田地域 サロン同士のつながりを広めよう！	解決する	梅田	47
ふれあいサロン“サロンたんぽぽ”／ふれあいサロン開設5年目を迎えて	解決する	中央本町	48
医療法人財団 梅田病院／地域に愛される夏祭り	地域を知る	梅田	49
梅島キッズサポート／梅島キッズ夏祭り	解決する	梅島	50
本木荘／地域に開かれた施設を目指して～夏祭りの開催～	地域を知る	関原	51
イオン西新井店／朝から元気にラジオ体操第1、第2！！	地域を知る	梅島	52
梅田地域のふれあいサロン／ふれ愛サロンまつり	交流する	梅田	53
子育てカフェeatoco(イイトコ)×コワーキングカフェ／クリエイティブになりたいひと、集まれ！～になりたい自分になる、コワーキングカフェ～	活躍する	関原	54
 ワイワイ健康ひろば♪実行委員会／みんなで集まるふれあいの場	地域を知る	梅島	55
 ふれあいサロン“本関男暖会”／みんなが主役！見つけた仲間	活躍する	関原	56

【千住】

タイトル	分類	取材地	頁
ふれあいサロン“男の健康クラブ～日・東・旭(サン・サン・サン)～” / 男にもできる。男だからできる、地域の居場所!	解決する	千住東	57
柳原通り商店会“ふれあい食堂” / 目指すは、地域の活性化と住民同士の支え合い	交流する	柳原	58
千住旭町公園(太郎山公園)ラジオ体操 / 元気の源ここにあり! ? 地域の朝活	交流する	千住旭町	59
足立区社会福祉協議会 地域福祉研究委員会 / 百聞は一見にしかず。その先に見えたもの…	地域を知る	新田	60
仲町ゆめ食堂 / 10年続く子ども食堂をつくりたい	交流する	千住仲町	61
ベストリハ株式会社 てへぺろレストラン / 「やりたい」を実現できる社会を目指して	活躍する	千住龍田町	62
足立区社会福祉協議会 地域福祉研究委員会 / 千住常東地域「意見交換会」を開催しました	地域を知る	柳原	63
新田子ども会連合×新田地域学習センター / 「子ども達が大活躍」新田ハロウィンスタンプラリー	活躍する	新田	64
千住ブロック内地域包括支援センター×男性の居場所 / 俺達の、俺達による、俺達のための「男活交流会」	交流する	日の出	65
千寿青葉中学校 / 高齢者について知ろう「高齢者疑似体験」	地域を知る	千住宮元町	66
帝京科学大学×チームあだち / サバイバルクッキングを通じて災害意識を高めよう	活躍する	千住桜木	67
常東地域あんしん拡大推進会議 / 「高齢者声かけ訓練」で認知症の人を支える地域に	解決する	千住旭町	68
いつでも自由研究製作所×そんぼの家S王子神谷 / 地域の中で、心地よく寄り添い合える、つながりに	交流する	新田	69
ふれあいサロン“サロンニューライフ” / 活動継続10年。編み重ねた近隣同士のつながり	交流する	小台	70
 帝京科学大学×地域包括支援センター千住西 / 交流を通じた学生の学び場	活躍する	千住中居町	71

【東部】

タイトル	分類	取材地	頁
ハート&ハート実行委員会 佐野地域学習センター / 地域的一大イベント! 福祉まつり「ハート&ハート」	地域を知る	佐野	72
神明南パソコン教室 / 自宅で憩うパソコン教室	解決する	神明南	73

タイトル	分類	取材地	頁
綾瀬あかしあ園×むつみ会／屋上のオアシスで園芸ボランティア	地域を知る	綾瀬	74
パークエンジェルの会／七輪は、遊びや学びの最適な道具	地域を知る	谷中	75
人生ココから見本市実行委員会／会社のプロから地域のプロへ！居場所を見つける見本市	活躍する	綾瀬	76
あやせコミュニティパーク／地域の中の施設であるために	交流する	谷中	77
ものくる(加平児童館)／ふらっと！児童館で、子ども服とママ友の交流！	交流する	加平	78
人生ココから見本市実行委員会／男性の孤立防止の取り組みから始まった、「人生ココから見本市」	交流する	綾瀬	79
 コワーキングスペース タイニーボート／イベントを通して地域を盛り上げます	交流する	神明南	80

【西部】

タイトル	分類	取材地	頁
ふれあいサロン“サロンいろり”／男性高齢者が地域に参加する工夫！	解決する	谷在家	81
あだちガイドヘルパーの会／みんなで体験、アイマスク！	活躍する	舎人	82
ふれあいサロン“体操クラブつどい”／効果があるからこそ、続けたい	解決する	谷在家	83
就労移行支援センターフリーデザイン／親子で楽しむセカンドステップ講座	解決する	西新井栄町	84
足立-70-G／ソフトボールで地域の輪を広める	交流する	椿	85
西新井地域ふれあいサロン／作って遊ぼう！！むかしあそび	解決する	栗原	86
足立区主催認知症予防PR イベント／あだち脳活フェスタ in「アリオ西新井」	地域を知る	西新井栄町	87
あだち子ども食堂 たべるば／「孤食」と「固食」を減らし、心地いい居場所を目指して	活躍する	栗原	88
西新井緑町会／町会内の事業所と清掃を通じた地域の見守り	地域を知る	西新井	89
西新井地域ふれあいサロン／西新井地域ふれあいサロン交流会～ちいきの輪～	交流する	西新井	90
コミュニティ賃貸住宅 PARCO CASA／賃貸住宅から広がる地域のつながり	地域を知る	西新井本町	91
江北一丁目第三自治会／わきあいあいとした交流と美味しい食事	解決する	江北	92

タイトル	分類	取材地	頁
 ふれあいサロン “ぐらんぱ扇” / 「初心者でも参加できる」と大盛況	交流する	扇	93

【北部】

タイトル	分類	取材地	頁
社会福祉法人あだちの里 竹の塚福祉園/住区センターの活動団体が集う地域交流会	交流する	竹の塚	94
平成29年度ここあだちカレッジ(秋コース)卒業生/サロン作食楽(さくら)	活躍する	南花畑	95
地域包括支援センター保木間×竹の塚あかしあの杜/男心をくすぐる“男だけのそば打ち”	解決する	西保木間	96
ふれあいサロン “ふれあいサロンマハロ” / 歌とともに一周年。口ずさむメロディ	交流する	南花畑	97
株式会社ピーアーク足立/公園花壇をきれいにして良いまちづくり	地域を知る	竹の塚	98
ほつか☆色あそび実行委員会/想いと人をつなぐ 色あそびコラボ展	地域を知る	保塚町	99
都立城北特別支援学校(中学部・高等部)/誰もが輝く運動会	交流する	南花畑	100
花畑地域学習センター×足立区社会福祉協議会/「人生100年時代を生きる！」花畑エリアで地域デビュー	活躍する	花畑	101
保木間周辺地域ふれあいサロン/サロンスタッフの交流、情報交換会	交流する	花畑	102
足立区社会福祉協議会 地域福祉研究委員会/見つけた！地域の支え合い～地域福祉活動フォーラム～	地域を知る	花畑	103
 行こう！伊興☆みんなのひろば 企画ミーティングメンバー/行こう！伊興☆みんなのひろば	活躍する	伊興本町	104

【特別編】

タイトル	分類	取材地	頁
東京都×東京ボランティア・市民活動センター×アクションプラン推進会議/愛媛コミュニティ支援プログラム派遣報告	災害派遣	愛媛県 宇和島市 吉田町	105
 ささえあいりporter集団リポート/あだちNPOフェスティバル2018	集団リポート	中央本町	107

ふれあいサロン “本関らくらくサロン”

住み慣れた地域で体操を続けていこう！

皆で体操、笑顔で元気に

「らくらく教室」(地域包括支援センターが主催する教室)の卒業生が中心となって開催している「本関らくらくサロン」です。らくらく教室の卒業後も、知り合った仲間たちと体操を続けていきたいと、話し合いを重ねる中で、ふれあいサロンとして活動していくことを決めました。普段は体操を中心に、朗読やちょっとしたゲームを楽しんでいます。

7月のサロンで、スタッフから参加者に活動でやってみたいことを聞いたところ、

「折り紙を教えてほしい」という声。スタッフはこの声を温め、どこかの時点で活動に取り入れることにしました。



右腕を上げて、脇を伸ばします！

「やりたい」声を大切に

サロンのスタッフが打ち合わせを重ね、12月に「お楽しみ会」を開催しました。それまで温めていた「折り紙を教えてほしい」という声を企画に取り入れ、季節の歌や折り紙、全員の自己紹介へと、会を進行していきました。

普段とは少し違う活動に、歌や折り紙は盛り上がり、たくさんの参加者から「楽しかった」の声が聞かれました。普段は「縁の下の力持ち」のサロンスタッフですが、この日はエンターテイナーとしても大活躍し、会場内に笑顔が溢れた一日でした。



皆、折り紙に夢中

取材日	平成29年12月5日(火)	参加者数	23名
取材メモ	サロンについて一生懸命考えているサロンスタッフ、参加者の皆さんがとても素敵でした。		
取材者	久米薫		
問合せ先	地域福祉課 ☎6807-2460		

ふれあいサロン “楽楽サロン梅田”

「体操」から色々な「やってみたい」を発見！

フォークダンスでみんなが一つに

平成29年4月に立ち上がった「楽楽サロン梅田」は、「らくらく教室」（地域包括支援センターが主催する教室）の卒業生が中心となって開催しています。普段は体操を中心に、朗読やゲーム、歌などを楽しんでいます。

参加者の皆さんから、「フォークダンスを覚えたい」と声上がり、皆で「オクラホマミクス」を練習しました。踊りの伝え方や試し方、女性役や男性役をどうするかなど、皆で考えているうちに、「なんとか覚えてみんなでステップを踏もう！」と盛り上がり、最後はみんなが一つになって声を掛け合いながらステップを踏むことができました！



まーえ、うしろっ、みんなでステップ

サロン同士の懇談会が実現！

平成30年2月13日に「楽楽サロン梅田」と近隣で同時期に立ち上がった「本関らくらくサロン」、ボランティア講師、地域包括支援センター職員を交えて懇談会を行いました。

お互いのサロンのやり方や困っていること、工夫していることなどを情報交換し、「参考になった」「うちのサロンでもやってみようか」など、スタッフからの感想が寄せられました。それぞれのサロンがこれからの活動に活かしていけるといいですね。



それぞれの思いを伝えあいました

取材日	平成29年12月26日（火） 平成30年2月13日（火）	参加者数	12月26日25名、 2月13日15名
取材メモ	フォークダンスを通して、「やりたい」が「楽しい」へ変わった、そして、みんなが一つになった瞬間でした。		
取材者	久米薫		
問合せ先	地域福祉課 ☎6807-2460		

NPO 法人グランファミリア×mogmog はうす 地域共生社会へ ～第1回あだちパン祭り～

足立区内の人気パン屋さん6店などが出店

NPO 法人グランファミリアが、あだちパン祭りを開催しました。食卓をコンセプトにしたシェアハウス「mogmog はうす」が協力・共催し、たくさんの来場者でにぎわいました。

会場は5月にグランファミリアがオープンする「Café Ohana ダイニング」。認可保育園、NPOの事務所などが併設された複合施設の中にあります。



開店すぐから人が押し寄せ、30分後には半数以上のお店が売り切れ御免。身動きがとれないほどの盛況でした

“食”を通じた共生の拠点づくり、始まる

「食を通して顔の見える地域づくりにつなげたい」という「あだちパン祭り」。

企画の趣旨は「孤立化しやすい乳幼児がいる家庭、妊婦、高齢者、障がい者がつながる場」づくりを目指す「Ohana ダイニング」の考えに通じています。

主催のグランファミリア代表理事の鈴木さんは「こんなにたくさんの人が集まってくれてびっくり。またやって、との声もいただいたので考えていきたい」とはずんだ声で話していました。



「息子もパン好きなんで」と訪れたご家族。
「近所だからオープンしたらまた来ま～す」



主催者スタッフの皆さん。
左から三浦さん、鈴木さん、丸山さん、三谷さん

取材日	平成30年4月22日(日)	参加者数	約300人
取材メモ	「世代を超えてつながり、災害時には助け合う関係ができる地域社会にするためのプラットフォームカフェ」が「Ohana ダイニング」のコンセプト。これからのチャレンジにエールを送りたいと思います。		
取材者	堀崇樹		
問合せ先	Café Ohana ダイニング(足立区梅島3-4-8 2階) ☎5888-6188		

ふれあいサロン “わかば健康クラブ” みんなで作り上げる体操サロン

ふれあいサロンの立ち上げへ

平成 29 年度に、住民主体の体操の場としてモデル事業実施した「体操サロンの効果測定」のひとつが、ふれあいサロン「わかば健康クラブ」です。谷在家福祉園で行われているふれあいサロン「体操クラブつどい」と同様、平成 30 年 3 月に自主的なサロンとして立ち上がりました。

医療法人社団 福寿会の在宅総合ケアセンターの 3 階の会議室をお借りし、毎週月曜日、午前 9 時 30 から 11 時まで体操やレクを通して交流しています。奇数の週はモデル事業の時から講師をしている「コーチングバリュー協会」の平先生が体操の指導をしているのですが、偶数の週はサロン代表の戸田さんが前に出て進行しています。分からないことや気になることがあると、その都度皆で相談しながら「ここはどうでしょうか」「この部分は 4 つ数えよう」等、内容を修正しています。



参加者は毎回 15 名程度。男性も参加しています

皆でアイデアを出し合って

体操の後は、レクの始まりです。輪の中にボールを投げ入れ、点数を競います。投げる場所から遠くにある輪や小さい輪が高い点数になります。ボールが思うような場所に行かず、皆さん四苦八苦されていました。

ボール投げがひと段落すると、「皆で歩き回り、ストップと言ったら輪に入る。大きな輪なら 3 人は入れるんじゃないかしら」等、アイデアを出し合いながら、また異なるレクが続きます。

皆で自由に意見を出し合い、作り上げているふれあいサロンです。



5 点、10 点と、輪によって点数が異なります

取材日	平成 30 年 4 月 23 日 (月)	参加者数	15 名
取材メモ	和気あいあいな雰囲気、言いたいことを言い合える、そんな仲の良さが感じられる体操サロンです。		
取材者	中村里香		
問合せ先	地域福祉課 ☎6807-2460		

ふれあいサロン “笑楽絆サロン”

「地域の誰でも立ち寄れる場」を目指して

どなたでもいらっしやい

自宅を開放し、今年4月にふれあいサロンの仲間入りをした「笑楽絆（しょうらくきずな）サロン」です。

代表の鈴木さん夫妻は、人とのつながりを大切にし、地域の人がいつでも誰でも自宅に立ち寄ってお茶を飲める場にしたいと、独居で外出が難しい方や自宅前を通りすぎる方を「お茶」に誘っていました。そんな鈴木さん夫妻の人柄と、地域包括支援センター本木関原 佐野職員の「関原地域に交流の場を作りたい」という地域への熱い思いがつながりました。「楽しく笑って」と「絆」をつなげて笑楽絆サロン。毎月第4木曜日に開催中です。



サロン会場のすぐ前は玄関。皆さんの歌声を聴いて新たな訪問者も訪れます

三味線の音に誘われて

サロン開催日、自宅前を通ると「NHKのど自慢大会」の番組を思わせるような音色が聞こえてきます。本格的な三味線、尺八の音に合わせて参加者の皆さんが民謡を歌っているのです。民謡を歌うと、その地にまつわる話題が飛び交う事も。「三味線は歌う人の声に音を合わせるもの。天気によっても音が変わる」と話す鈴木代表は、一曲歌うごとに音合わせをします。参加者の皆さんは、おいしいお茶を飲みながら歌ったりおしゃべりして、和やかな交流を楽しんでいます。



三味線を弾く鈴木代表と尺八を吹く渡辺さん

取材日	平成30年5月24日(木)	参加者数	10名
取材メモ	サロンに伺うと、どんな曲にも合わせられる三味線や尺八の名人と、一緒に歌う参加者の皆さんとともに、楽しく懐かしい時間が過ぎていきます。		
取材者	久米薫		
問合せ先	地域福祉課 ☎6807-2460		

NPO 法人 “あだちママカフェ”

折り紙でつながる交流の輪

綺麗な作品に魅せられて

あだちママカフェは、子育て中の親子の支援団体です。主に梅島から西新井エリアで、色々なテーマでお茶会を開催しています。6月15日（金）、あだちママカフェが主催する折り紙イベントが、NPO活動支援センターで開催されました。

折り紙の講師は、元民生・児童委員の根木島さん。きっかけは、根木島さんがふれあいサロンへのお土産用に折った作品が、代表の長汐さんを魅了したことです。長汐さんは「ぜひ、この指輪やくす玉を親子向けに教えてほしい。初級、中級、という形で段階的にシリーズ化していきたい」と目を輝かせました。



根木島さんの作品。奥のくす玉は、日本の工学者が考えたものだとか。紙質を変えると折り鶴も文化的に

折るのも遊ぶのも楽しい！

イベントの参加者は、親子、一般参加者合わせて計14名。講師の根木島さんから、折り紙を始めたきっかけや折り紙の魅力を紹介した後、早速折り紙開始！今回は初心者向けとして、お相撲さんとウサギ作りをしました。わかりやすく丁寧な説明と素敵な作品を目前に、子どもたちは「わたしがやる！」と集中して折っていました。折り終えた後はトントン相撲でみんな笑顔！楽しい時間になりました。



お相撲さん、トントンして倒れちゃった(笑)

取材日	平成30年6月15日（金）	参加者数	14名
取材メモ	折り紙を通して「折る」「遊ぶ」「交流する」楽しさを垣間見ることが出来ました。笑顔の絶えない時間となりました。		
取材者	久米薫		
問合せ先	地域福祉課 ☎6807-2460		

梅田地域 ふれあいサロン

梅田地域 サロン同士のつながりを広めよう！

サロンスタッフの顔合わせ会

6月28日（木）地域包括支援センター関原にて「ふれあいサロン意見交換会」をテーマに地域ケア会議（※）が開催されました。

梅田地域の近辺には14団体のふれあいサロンがあり、運営については個々のサロンが工夫を重ねています。同じ地域で活動していますが、サロン同士のつながりがなく、運営に関してのノウハウについて情報共有する場もありませんでした。そこで、ネットワーク構築のため、サロンスタッフの方々に集ってもらい、各サロンの活動紹介、グループに分かれて顔合わせを兼ねた意見交換会を行いました。



活動風景の写真を見ながらサロン紹介

サロンから発信する元気な地域に

活動紹介ではそれぞれのサロンスタッフから説明があり、「お茶飲み、体操、マージャン、歌、折り紙、手芸、英語でおしゃべり」などお互いの活動を共有しました。後半のグループワークでは、「ハーモニカを吹ける人がいるよ」「オリンピックも近いし英語でおしゃべりしてみたい」など盛り上がりました。最後に、「今回のようなサロン同士の交流を続けていきたい」と声があがり、今年度中に地域の方々に向けた、サロン紹介をする場をつくろうという話になりました。



グループごとにサロンの特色、運営について話します

梅田地域の高齢者の社会参加を増やし、誰かとつながり、孤立しない地域を目指す第一歩です。活気あるサロンのパワーで、どんなイベントになるか楽しみです。

※地域ケア会議：地域住民や関係機関と地域の課題把握や課題解決に向けて話し合いを行う会議で、地域包括支援センターが開催している

取材日	平成30年6月28日（木）	参加者数	29名
取材メモ	みんなでやってみよう！という活気に溢れた会議でした。住民に向けたサロン紹介イベントを引き続きレポートします。		
取材者	桑原清美		
問合せ先	地域包括支援センター関原 ☎3889-1487		

ふれあいサロン “サロンたんぽぽ”

ふれあいサロン開設5年目を迎えて

月に1度は会いましょう

マンションで開催するふれあいサロン「たんぽぽ」です。5年前、当時自治会の婦人部長だった瀧呑さんは、同じマンション内で“月に1度も会わない方がいる”と交流の薄さに危機感を抱いていました。そこで、独居高齢者の安否確認を始めると共に、住民が交流できる場所を作ろうと、ふれあいサロンを立ち上げました。自治会の役員さんが協力者(スタッフ)として積極的に運営に関わり、今では参加者が30名を超えるようになりました。皆さん、口をそろえて「サロンの日を楽しみにしているのよ」と話します。



皆と一緒になら、ラジオ体操も楽しく参加

この先7年、10年へ歩んでいきたい

「祝 サロンたんぽぽ5周年」として、平成30年6月28日、皆さんで机を囲んでスタッフ手作りのお味噌汁と軽食を楽しみました。

開設当初から参加している88歳の方に話を伺いました。「健康長寿の秘訣は趣味。楽しいことをすると元気が出る。『たんぽぽ』は1カ月に1度会う会だから、いつも話す仲間との会話が楽しみ」と話します。年間を通して計画的に活動内容を決めているサロンたんぽぽですが、こうしたおしゃべりの時間もサロン活動の大切な一部となっています。



サロンたんぽぽを支えるスタッフの皆さん

取材日	平成30年6月28日(木)	参加者数	35名
取材メモ	女性だけのサロンです。おしゃべりをしてふれあいサロンに参加している方をお見受けしました。とても素敵だなと思います。		
取材者	久米薫		
問合せ先	地域福祉課 ☎6807-2460		

医療法人財団 梅田病院

地域に愛される夏祭り

始まりは10年程前

梅田病院は10年程前から、地域住民に向けた夏祭りを開催しています。焼きそばやポップコーン、かき氷など、子どもたちが喜ぶようなブースはもちろん、測定ブース（身長・体重・血圧・血糖値）や手作りアロマなど大人にも嬉しいブースがあり、子どもからお年寄りまで大賑いでした。

当日は13時開始でしたが、15分前にはスタンプラリーのチケット待ちのお客さんが列を成していました。このチケットにスタンプを貯めると素敵なプレゼントがあるそうです。梅田病院の多くのスタッフが、この日のために準備を進めてきたことが分かりました。



入口は七夕の飾り付けです

地域に向けた取り組み

ポップコーンブースを担当していた地域医療連携室の武藤さんにお話を伺いました。梅田病院では、地域に向けた取り組みとして、糖尿病の基礎知識などの出前講座を行っているそうです。

武藤さんからは、「地域に開かれた病院でありたいと思っているんです」とにこやかな笑顔でおっしゃっていました。



取材日	平成30年7月7日（土）	参加者数	約400名
取材メモ	「毎年楽しみにしているんだ～」という声もあり、地域で馴染みのある祭りになっているんだなと感じました。		
取材者	中村里香		
問合せ先	地域福祉課 ☎6807-2460		

梅島キッズサポート 梅島キッズ夏祭り

主役は子どもたち

7月14日（土）、平成30年度で第4回目となる「梅島キッズ夏祭り」が開催されました。会場はベルmont公園です。当日は夏の暑い日差しが照りつけていましたが、多くの人で賑わっていました。

お店を切り盛りするのは、地域の住民の皆さんや地域団体、ボランティアの方々です。子どもたちが売り子をしているお店が多く、元気いっぱいの声が響いていました。

地域のお店で事前に販売しているメダル（券）と、当日販売券で、すべてのお店が楽しめます。かき氷や焼きそばはもちろん、水てっぽう射的やじゃんけんゲームなど、子どもたちが楽しめる工夫がありました。



「お楽しみ会を復活させたい」という代表者の思い

「梅島キッズ夏祭り」は、元々子供会が主催していた「お楽しみ会」を復活させたいという思いから、「梅島キッズサポート」代表の磯部さんが中心となり、地域に働きかけたことで実現したお祭りだそうです。

お祭りで配布されたチラシでこんな言葉がありました。「このお祭りでたくさんの子どもの楽しそうな笑顔を見てください。たくさん地域の大人と関わる子どもたちの姿を見てください。たくさん大人たちの嬉しそうな笑顔も見てください。お祭りをみんなで盛り上げれば、大人も子どももみんなが笑顔になります。いい笑顔があれば、必ずそこには楽しいつながりができます」と。地域の子どもと大人がつながる場所、そして、普段顔を会わせない大人たちが出会う場所、それが「梅島キッズ夏祭り」でした。



取材日	平成30年7月14日（土）	参加者数	約500人
取材メモ	「梅島キッズサポート」では、お祭りの開催の他、定期的に資源回収を行い、その収益を地域のための活動に還元しているそうです。		
取材者	中村里香		
問合せ先	地域福祉課 ☎6807-2460		

本木荘

地域に開かれた施設を目指して～夏祭りの開催～

本木荘の取り組み

本木荘は、昭和57年に関原一丁目に設置された、病気やけがなどで働くことができない方が一定期間入所して、生活保護法に基づき生活の立て直しをする更生施設です。入所者の他、退所者においても地域で継続した生活が営めるように支援を行っています。

職員の川羽田さんによると、「昔からある施設なので地域に馴染んではいるが、どのような施設なのか知らない人が多い」とのこと。そこで、本木荘では、地域に向けて定期的な公園の清掃活動やお祭りの開催などを行っているそうです。



大賑わいなフランクフルト売り場

大賑わいな夏祭り

7月24日（火）は、本木荘の地域に向けた取り組みの一つである夏祭りが開催されました。蒸し暑い日ではありましたが、お祭りは多くの人で賑わっていました。

射的や輪投げなどの遊びコーナー、かき氷やフランクフルトなどの食べ物コーナー、そして入所者の手作り小物の売り場と様々。手作り小物のコーナーでは、オリジナルの模様で刺繍されたタオルやコースター、髪ゴムやミサンガなど色とりどりで、思わず足を止めてじっくり見ていらっしゃる方も。

主に入所者の方達がお店に従事し、職員の方達がサポート役に回って、忙しそうに駆け回っていました。運営に回る職員の岩田さんは、「今後は新しいことにも少しずつ挑戦していきたい」と笑顔で話されていました。



色とりどりの手作り小物とそれを嬉しそうに手に取るお客様

取材日	平成30年7月24日（火）	参加者数	323名
取材メモ	「毎年お祭りを楽しみにしている」というお母さん達や子どもたちが多数いらっしゃり、夏祭りが地域に根付いた取り組みになっていることが分かりました。		
取材者	中村里香		
問合せ先	地域福祉課 ☎6807-2460		

イオン西新井店

朝から元気にラジオ体操 第1、第2！！

毎日の開催で一日の習慣に！

「イオン西新井店」4階にあるイベントスペースでは、毎日ラジオ体操を開催しています。開始時間は朝9時15分からですが、9時を過ぎるとエスカレーターに乗って続々と地域の方々が集まってきます。参加者は多い時で30名前後になります。

取材日に、「もうそろそろはじまりますよ～」と参加者に声をかけるのは前川店長です。自ら画面の前に立ち、皆さんと一緒に体操に参加します。終わったら体操カードにスタンプを押してもらい、20個集めると素敵な商品と交換してもらえます。



腕をのばして1、2、3、4～

ラジオ体操が交流のきっかけに

「なんとなく上で音がする」「ふらっと立ち寄ったらやっていた」など、ラジオ体操に参加したきっかけは様々です。参加者同士、なんとなく顔見知りになって、体操が終わったら隣のイトインスペースでお茶を一杯飲んで、帰りは1階で買い物をして帰るといった流れになっている参加者も多いようです。

このラジオ体操がまさに地域の居場所となり、外出や交流のきっかけになっています。参加者の中にはなんと宮城地域から来ている方も。ラジオ体操に参加することで、一日の原動力になっているそうです。



終わったらスタンプを押してもらいます

取材日	平成30年11月13日(火)	参加者数	30名前後
取材メモ	ラジオ体操に出かけて体操、交流、買物。心にも体にも嬉しい「地域の居場所」です。		
取材者	久米薫		
問合せ先	地域福祉課 ☎6807-2460		

梅田地域のふれあいサロン

ふれ愛サロンまつり

地域で自分らしくいられる居場所～ふれあいサロン～

平成30年11月22日（木）、梅田や関原地域で活動している12団体のふれあいサロンが集結！会場の梅田地域学習センター4階ホールで、各サロンの活動内容を発表しました。

この企画については、今年の5月頃から準備を始め、パネル展示、作品展示、体験ブースなど盛りだくさんの企画内容を用意しました。お祭り当日のこの日は、ギターを生演奏や体操、ダンスなどの舞台発表もあり、参加者が一体となって、歌ったり踊ったりして楽しみました。住民の皆さんが生き生きと地域で暮らす「輝き」が会場にあふれ、終始大賑わいでした。



「わかば健康クラブ」さんが舞台上に立ち、会場一体となって行った体操。皆さん、元気いっぱいでした

話ができる、居場所がある～様々な出会いが生まれる場～

どのサロンもメンバー同士の仲が良く、皆さんリラックスしながら、自分のペースで楽しんでいる姿が印象的でした。「ここでなら自分らしくいられるんだ」「このサロンに出会えてよかった」と、嬉しそうに語ってくれた方の笑顔はとても素敵でした。

また、パンフレットを見ながら、「このサロンに入りたんだけど、どこに行けばいいのかしら？」「別のサロンにも入ることにしたのよ」など、新しい出会いも生まれたようです。

「これ、いいわね、うちのサロンでもやってみようかしら」「この脳トレの用紙もらってもいい？」など、サロン同士、また、住民同士のつながりも広がっていました。今後もみなさんの活動、活躍に期待が膨らみます。



参加者も一緒にフォークダンス大会に！演奏を聴いたり、ブースに遊びに行ったり、自由な雰囲気でした

取材日	平成30年11月22日（木）	参加者数	約160名
取材メモ	準備、片づけは、お互いに協力し合ってあっという間に終わりました。皆さんとっても笑顔が素敵で、本当に生き生きとしていました。		
取材者	石川実季、加藤和宏、桑原清美、東瑞恵		
問合せ先	地域包括支援センター関原 ☎3889-1487		

子育てカフェ eatoco（イトコ）×コワーキングカフェ クリエイティブになりたいひと、集まれ！ ～やりたい自分になる、コワーキングカフェ～

地域の交流の場で、やりたいことを企画する

「コワーキング」とは何ぞや？…これは、活動する場所を共有しながら、場に集ったメンバーがそれぞれに独立した仕事を行う共働ワークスタイルのことを指します。個性が会う場なので、そこからコラボレーションが生まれたり仕事をもらえたりする可能性があるのがメリット。こんなコワーキングカフェが、関原3丁目にオープンしています。

「関原銀座会」商店街の通りに面した、子育てカフェ「eatoco」の2階レンタルスペースを会場にして、毎週火曜日の午前中「何かを創りたい、自分を表現したい」ひとたちが集まります。こちらのカフェは場所を提供するだけではなく、週ごとにワークショップが開かれるのも魅力のひとつ。取材班が訪問したこの日は、商店街で買い物をする時の「エコバックづくり」に挑戦しました。



子育ても、仕事も頑張りたいお母さんたち

「コワーキングカフェ」は年齢性別を問わず「やりたいことがあるひと、大歓迎」のオープンスペースです。場所が子育てカフェということもあり、日々奮闘しているお母さんを応援するあたたかな雰囲気満ちていて、居心地は二重丸◎。ワークショップを主宰しているスタッフは「足立区のお母さん方はパワーに満ち溢れている」と力強く話します。



子どもと接する時間を一番に考えながらも、「母親」の役割だけではなく自らを表現したい、仕事をしたいという思いを持って余っていて、それを発現する方法や場所を求めているのだと。ここでいう仕事は賃金を得る仕事だけではなく、自己表現としての仕事、自分で決めた自分だけにしかできない仕事や道のことを指す、広義の仕事のことをいいます。だから発想は自由。やりたいことがあったら、気持ちがあったら「とりあえず動いてみる！」これがモットーです。今回エコバックをワークショップの題材にした理由は、地域で自らの仕事に励みネットワークづくりに取り組む皆

で持つための、共通の旗印にしたいからだそうです。熱い思いに感動しました！

取材日	平成31年1月15日(火)	参加者数	2名
取材メモ	何かをやりたい、企画したいと思い立ったときに足を運べる場所があるのはとても嬉しいです。集う方々との交流もよい刺激になると思いました。		
取材者	桑原清美、高井理紗、東瑞恵		
問合せ先	地域福祉課 ☎6807-2460		

ワイワイ健康ひろば♪実行委員会 みんなで集まるふれあいの場



みんなが一緒に

平成30年11月14日(水)、「イオン西新井店」4階イベントスペースで「ワイワイ健康ひろば♪～赤ちゃんからおじいちゃんおばあちゃんまで～」が開催されました。普段イオンで活動している「あだちママサロン」「アクサ生命保険」「井上病院クリニック」「コーチングバリュー協会」「スポーツスタッキング教室」が集結し、一つのイベントを作り上げました。参加された方々と一緒にスポーツスタッキングやコーディネーション運動、クイズ、健康チェック、くるみボタンストラップ作りなど、参加した皆さんが交流し、健康意識の向上につながりました。



和気あいあいとした様子

イベントの中でも特に盛り上がっていたのが、コーディネーション運動でした。コーディネーション運動とは、みんなで楽しく交流しながら体を動かす頭と身体のトレーニングです。子どもから高齢者までいくつになってもみんなが健康でいられることを考えた知的活動として知られています。イベントでは、皆さんが和気あいあいとした雰囲気、じゃんけんや身体全体を使った運動が行われていました。



スポーツやクイズを通じて参加者と各団体がふれあい、忙しい毎日の中で笑いあうことや健康であることの大切さを改めて実感できるイベントでした。

取材日	平成30年11月14日(水)	取材者
参加者数	約50名	ささえあいリポーター 三浦公男
取材メモ	地域の一人ひとりが参加したくなるイベントが増えるほど、人と人の輪が生まれ多くの社会参加につながるきっかけになると感じました。	
問合せ先	地域福祉課 ☎6807-2460	

ふれあいサロン “本関男暖会” みんなが主役！見つけた仲間



男性中心の居場所づくり

平成 30 年 5 月、関原地域の男性を中心とした憩いの場、ふれあいサロン「本関男暖会」が結成されました。毎月第 4 金曜日の 10 時から「槍ヶ岳居宅介護支援事業所」を中心に地域の公園、神社、街並みを巡りながらゴミを拾います。ゴミ拾いが終わると、みんなで楽しいおしゃべりタイム。地域の歴史や一人ひとりの思い出話に花が咲きます。「気軽に立ち寄り、仲間が増える」「男性の社会参加の機会を増やしたい」それが「本関男暖会」のテーマです。



集合場所で「今日もがんばるぞ！」

心と体にやさしい活動の輪

「歩くと気持ち良い」「体調が良くなった」と、気さくにおしゃべりできるメンバーばかりで、心と体のケアにもつながっています。街を掃除しながら歩いている姿に、地域の皆さんから「ありがとう」という感謝の声がかかります。この街のぬくもりを感じ、「本関男暖会」が地元の方々に親しまれていることが分かりました。

地域のゴミ拾いの他、去年はほうとう作りに挑戦し、今年はカレーライスを作るそうです。人と人がつながる温かさは「何かを始めたい、試しにやってみようかな」そんな方にうってつけです。本関男暖会はいつでも大歓迎で皆さんをお待ちしています。



ゴミ拾いしながらおしゃべりも楽しめます

取材日	平成 31 年 1 月 25 日(金)	参加者数	8 名	取材者
取材メモ	思わず笑顔がこぼれる。時間が経つのを忘れさせるほど楽しい体験でした。			三浦公男 
問合せ先	地域福祉課 ☎6807-2460			

ふれあいサロン “男の健康クラブ～日・東・旭～”

男にもできる。男だからできる、地域の居場所！

男性の居場所づくりを目指して

男性高齢者の孤立が課題となっています。ふれあいサロン「あずまおちゃっこ会」代表の中石さんも、「サロンに男性の参加がない」「団地内には一人暮らしの男性高齢者が多い。近所の人と交流しているのか？」などと、この課題を実感されていました。

そこで、地域包括支援センター日の出と協力し、男性が参加しやすい居場所づくりを始めました。絆のあんしんネットワーク連絡会で地域の皆さんとこの課題を共有しながら協力者を募り、日ノ出町と千住旭町の2名の方が運営メンバーに加わりました。話し合いを重ね、「男の健康クラブ～日・東・旭～」の初回を迎えました。



メンバー3名(全員男性)で打ち合わせ
(右から、中山さん、望月さん、中石さん)

テーマは「栄養」「運動」「交流」に

初回は栄養をテーマに、ボランティアグループ「スカラーママ(※)」を講師に招き、栄養バランスが取れた食事の取り方や缶詰を使った男性でもできるレシピを教わりました。始めに自己紹介を行いましたが、徐々に緊張した空気がほぐれ笑い声も交えながら、今回参加した経緯や普段の食生活について語り合いました。

講義の後は、ラジオ体操を行い、あっという間に終了時刻となりました。男性限定で交流している、ふれあいサロンが増えている中で、「男の健康クラブ～日・東・旭～」の今後の活躍に期待大です。



スカラーママの講義の様子
男性同士で話も大盛り上がり！

※スカラーママ：管理栄養士の資格を持った方々によるボランティアグループ。こども食堂の運営や栄養に関する講座などを行っています。

取材日	平成30年4月20日(金)	参加者数	16名
取材メモ	今後に向けて、運営メンバー3名で話し合いを重ねています。次回は、どんな活動を行い、どんな交流が生まれるのか楽しみです。		
取材者	高橋亮		
問合せ先	地域福祉課 ☎6807-2460		

柳原通り商店会 “ふれあい食堂”

目指すは、地域の活性化と住民同士の支え合い

人と人がふれあう場に

「そば処やなぎ家」で、毎月第3日曜日の午前11時から午後2時まで開催している、「ふれあい食堂」を訪問しました。

食堂の運営は、「柳原通り商店会」の皆さんが担っています。地域のつながりの希薄化が課題となっている現状から、地域の方々が交流を通して顔なじみの関係になれるようにと、人と人がふれあう場所の意を込め「ふれあい食堂」として活動を開始されました。

家族連れや高齢者同士、子ども同士など毎月50名近い来店があり、様々な交流が生まれています。訪問当日も、高齢の方から子どもまで世代を超えた交流も見られ、心地よい雰囲気でした。



スタッフの皆さん。ふれあい食堂は、商店会の多くの方の協力により運営されています

活動を開始して見えた変化も

スタッフの方に活動を通して感じたことを伺うと、「食堂を始めてから、道ですれ違った時に挨拶を交わす人が増えた」と地域の変化を話してくださいました。柳原通り商店会では、ふれあい食堂以外にも、スポーツ吹き矢大会など様々なイベントを実施しています。これらの活動を通して、柳原通り商店会が目指す「地域活性化」と「住民同士の支え合い」が目に見える日も近いかもしれません。



子ども達に大人気！
綿あめコーナーや駄菓子コーナーも



食事をしながら、世間話に花が咲きます

取材日	平成30年5月20日(日)	参加者数	40名
取材メモ	商店会の方が一人ひとりできることを活かしながら、地域のために活動されている様子が印象的でした。今後の活躍に期待大です。		
取材者	高橋亮		
問合せ先	地域福祉課 ☎6807-2460		

千住旭町公園（太郎山公園）ラジオ体操 元気の源ここにあり！？地域の朝活

一日の出発点として

千住旭公園（通称「太郎山公園」）で地域住民によるラジオ体操が始まったのは、約 50 年前のこと。運営を代々引き継ぎ、現在は6名のラジオ体操指導士が中心となって、ほぼ毎日活動しています。参加人数は常時 100 名近く、夏休みには親子の参加も増え、120 名以上にのぼります。

午前 6 時過ぎから参加者が集まり始めます。中心メンバーは、参加者一人ひとりに挨拶して回ります。参加者に伺うと、「中心メンバーが熱心で温かいから足を運んでしまう」と感想を話してくださいました。

体操が始まるまでは、参加者同士でおしゃべりタイム。自然と公園内も笑い声で賑わいます。「ここは 1 日の出発点」と中心メンバーが話していた言葉が印象的でした。



100 名以上の参加者で行うラジオ体操の様子は壮観でした



ラジオ体操指導士の皆さん

体操から人と人がつながる交流の場へ



1 杯 100 円！体操後のコーヒーが身に沁みて、会話が弾みます

ラジオ体操を終えた後にお茶飲みに出かける方々もいました。千住旭町にある居酒屋「ブエドバル」は、早朝からの仕込みの間に、お茶飲み場として場所を提供しています。店主は親しみやすい人柄で、お茶飲みに来る方々から「京子さん」と呼ばれています。

取材当日も、店主を交えて仲間同士でのおしゃべりが弾み、笑い声が絶えませんでした。まさに、地域に愛される、住民同士がつながる場となっていました。

取材日	平成 30 年 6 月 19 日（火）	参加者数	103 名
取材メモ	ラジオ体操から、住民同士が出会い、つながる場へ。活動の広がりが見えたことが印象的でした。今後も長く続く活動であってほしいです。		
取材者	高橋亮		
問合せ先	地域福祉課 ☎6807-2460		

足立区社会福祉協議会 地域福祉研究委員会

百聞は一見にしかず。その先に見えたもの…

「互いの活動」を見学してみることに！

足立区社会福祉協議会では、地域福祉研究委員会を発足し、地域福祉活動計画の進み具合について地域の中から選出された委員の方々にご意見を頂く機会を設けています。平成30年度は、百聞は一見にしかずと称して、互いの地域の活発な地域活動を見学することに。千住地域代表の研究委員会の委員4名、社会福祉協議会の職員で6月は介護予防体操を行っている「あけぼの会」と「あずまれ健康教室」の2カ所に見学に行きました。

委員会の遠間委員は「あけぼの会」の運営にも携わっています。遠間委員は、「あずまれ健康教室」の活動を見た後に、「自分のところが一番と思っていたが、地域の中には他にも素晴らしい活動があるのだと知ることができて良かった」と感想を話していました。

2カ所の見学を通して、他の地域の活動をもっと知りたいとの声も上がりました。

ふれあいサロン「たのしんで～ん」に参加してきました！

7月15日（日）千住地域の地域福祉研究委員会の遠間委員、茂出木委員と担当職員でふれあいサロン「たのしんで～ん」に見学に伺いました。地域の方が集まって交流するサロン、とても温かみを感じる心地よい居場所が広がっていました。まず私たちを出迎えて下さったのは、スタッフや参加者の笑顔。皆様の笑顔がとても自然で、常に和やかな空気が流れていました。

取材当日は、新田地域の助産師が熱中症の注意点を、サロン協力者で防災士の資格を持つ方が、災害時に役立つ縄結びを披露されていました。縄結びは手先を動かすため認知症予防にもつながります。

見学を通して、ある委員が言われた「無邪気になれる。それが楽しいんだよ」という言葉が印象的でした。なぜ活動するのか？理想の居場所とはどんなところか？今回の見学で一番の収穫は理想とする「活動の原点」に改めて気づけたことではないでしょうか？



遠間委員(左)と茂出木委員(中央)



取材日	平成30年7月15日（日）	参加者数	16人
取材メモ	地域の中には、様々な団体があり、それぞれが違う良さを持っていることを実感できました。		
取材者	市川敬子、永島学、田嶋亮太郎、高橋亮		
問合せ先	地域福祉課 ☎6807-2460		

仲町ゆめ食堂

10年続く子ども食堂をつくりたい

カフェを利用した子ども食堂がオープン

毎週月曜日。千住仲町のカフェ BUoY（ブイ）の場を利用した「仲町ゆめ食堂」が開きます。

運営するのはこのビルのオーナーの代理人、西田宗由さん。

今年6月に念願の子ども食堂をオープンさせました。

今日のメニューはハヤシライス、赤飯、夏野菜の煮物、枝豆にスイカです。なんと、西田さんがほとんど一人で作られているそう！食材はなるべく体に良いものを、と添加物や農薬の少ない物を選び、知りあいの農家などから仕入れています。

西田さんに「お一人での運営は大変では？」と尋ねると「時間もできたしね。10年は続けたいね」と軽やかなお答えをいただきました。

食堂で生まれる交流の輪

参加者の中には、子どもの同級生を誘って来ている親御さんもいました。

日によってはお孫さんを連れた高齢者が来ることもあり、多いときは約70名が来た日もあったそう。

地下の劇場スタッフが配膳を手伝ったり、食べに来た小学生が片付けを手伝ったりと、食堂を通して自然に交流や役割が生まれている様子が伺えました。



運営者の西田さん



大人 300 円、子どもは無料。ハヤシライスはフルーツも入って絶品でした！



取材日	平成30年7月23日(月)	参加者数	約20名
取材メモ	<p>今回この食堂を知るきっかけとなったのは、7月19日に区が開催した「子どもの未来を応援する活動団体交流会」でした。そこでは子どもの居場所に関わる大人たちが集まり、夏休みの子どもの居場所の課題や互いの活動について活発な意見交換が交わされました。</p> <p>足立区内全域で、子どもの多様な居場所が生まれ、ネットワークが広がる機運を感じています。</p>		
取材者	花本洋子		
問合せ先	代表 西田宗由さん メール：toki815@green.ocn.ne.jp		

ベストリハ株式会社 てへぺろレストラン

「やりたい」を実現できる社会を目指して

きっかけは、スタッフの思いから

「注文を間違えるレストラン(※)」をご存知ですか？認知症になってもやりたい、役に立ちたいという思いを実現するために、認知症の方々がホールスタッフになるレストランです。「ベストリハ株式会社」の山本さんも、認知症や病気、高齢になることでやりたいことを諦めるのではなく、「やりたい」という思いを実現できる場を提供したいと感じ、認知症の方がホールスタッフになる企画を考えました。



スタッフの皆さん(写真中央の男性が山本さん)

職場が提供する福祉サービスの利用者に声をかけ、3名の女性が名乗りを上げました。参加した皆さんは、認知症の傾向があるためスムーズにできない時もあるかもしれませんが、失敗しても照れ笑いで許してほしいという思いから、店名を「てへぺろレストラン」として開店の準備を進めました。

ちょっと失敗してもOK！「てへぺろレストラン」開店

「いらっしゃいませ」の声で開店した「てへぺろレストラン」。開店早々にほぼ満席に。スタッフの3名の方も素敵な笑顔で出迎えてくれました。

注文を受ける時や、配膳の動作はおぼつかないものの「ゆっくりして行ってね」と、料理とともに温かな言葉も届けてくれました。

ホールスタッフの方に伺うと、「昔、ゴルフ場のカフェで働いていたの。始めは緊張したけど、徐々に昔を思い出せた。やってよかった」と満面の笑みで話してくださいました。まさに、やりたいを叶える素敵な場所になっていました。



※注文を間違えるレストラン：認知症の方々がスタッフとなって、注文を取るレストラン。

ひょっとしたら注文を間違えてしまうかもしれませんが、そんな間違いを受け入れて、むしろ楽しんでほしいをコンセプトにしている。

取材日	平成30年7月28日(土)	参加者数	33名
取材メモ	スタッフと来店者が互いにwin-winな関係になっている点が素晴らしいと感じました。		
取材者	高橋亮		
問合せ先	ベストリハ株式会社 ☎03-5813-9897		

足立区社会福祉協議会 地域福祉研究委員会

千住常東地域「意見交換会」を開催しました



下町気質の残る新しいまち

「常東地域ってどんな特徴があるの?」「他の千住地域と何が違うの?」「課題はどんなことがあるの?」地域を知る人に話を伺おう!と社協が声をかけ開催しました。

参加者は、「地域福祉研究委員会」の委員4名と常東地域を担当する2カ所の地域包括支援センター(千寿の郷、日の出)の職員6名

です。日々、常東地域を回って仕事をしている職員、住民ならではのお話が聞けました。

常東地域の特徴として、大規模マンションの建設により30代のファミリー層と戦後から戸建てで住む70代の層が多く住んでいます。戸建てに住む方々は、地域のつながりが強く、気になる人がいれば地域包括支援センターに連絡してくれます。

地域の強みと課題を共有して

<地域の強み>

- 大学から親子向けのワークショップの案内を小学校で配布してもらえらる。
- 帝京科学大学(常東地域外)の学生が高齢者にスマホの使い方をレクチャーしている。
- 保育園などが多く子育てしやすい。

<課題>

- 個人商店が閉店し高齢者は買い物に困っている。
- ママ同士のつながりはあっても、町会、自治会などつながりにくい。
- コミュニティバスは利便性が悪く利用する人が少ない。
- 川に囲まれているため水害の心配がある。

<要望>

• 戸建てに住む人は水害の恐れがあるためマンション共用部に避難ができるように町会とマンション自治会が協定を結ぶことができたら安心ではないか。

上記のような様々な意見が出ました。

今回の意見交換では、地域の課題解決のきっかけにつながる支援ができないか?と課題を投げかけられた気がしました。※千住常東地域・・・北千住の常磐線東側の地域



取材日	平成30年10月11日(木)	参加者数	14名
取材メモ	ディープな千住、常東地域の生の声情報を聞くことができました。		
取材者	永島学、田嶋亮太郎、市川敬子、市岡ゆき子		
問合せ先	地域福祉課 ☎6807-2460		

新田子ども会連合×新田地域学習センター

「子ども達が大活躍」新田ハロウィンスタンプラリー

地域のつながりを目的に

「地域住民同士のつながりの希薄化」が課題とされている中で、「新田子ども会連合」と「新田地域学習センター」は、「地域のつながり作り」をテーマに、別々にハロウィンイベントを実施していました。同じテーマでイベントを実施していたため、今年度は、共催で企画することとなりました。

「新田子ども会連合」と「新田地域学習センター」で企画を考える中で、地域住民の方のご自宅や商店、福祉施設、「いつでも自由研究製作所」、「新田ジュニアクラブ」など様々な団体も運営に参加することに。「このイベントに参加した保護者が地域活動に少しでも目を向けてくれたら」「子ども達が活躍することで、次代を担う子が出てくれたら」といった隠れた思惑もあるようです。

様々な団体の協力と思いが集結する中で、いよいよ「新田ハロウィンスタンプラリー」を開催することとなりました。



「トリック・オア・トリート」が響きます

決められたコースを列になって歩く仮装した子ども達。各ポイント地点では、「トリック・オア・トリート」の音が響きます。お菓子をもらえた子どもは満面の笑み。お菓子を渡す地域の方も、その笑顔を見て自然と笑顔になります。各ポイント地点を仕切るのは、地域のジュニアリーダー達。中高生が中心ですが、実に頼もしいものでした。

町中を仮装して歩く子ども達を見て、道ゆく人も「あら素敵。なんか元気が出るわね」と嬉しそうに見守ってくれます。

多くの子ども達が、地域に元気を届け、住民同士がつながるきっかけとなる素敵なイベントでした。



この中に、仮装賞をもらった子がいます

取材日	平成30年10月20日(土)	参加者数	約120名
取材メモ	次代を担うジュニアリーダー達の活躍が光りました。新田地域のこれからの期待大です。ちなみに、右から5番目が仮装賞を受賞した参加者です。		
取材者	高橋亮		
問合せ先	地域福祉課 ☎6807-2460		

千住ブロック内地域包括支援センター×男性の居場所

俺達の、俺達による、俺達のための「^{だんかつ}男活交流会」

きっかけは、居場所を運営する地域住民の一言から

平成 29 年度から区内の地域包括支援センター（以下、「包括」）は、「男性の社会参加」をテーマに、地域住民が中心となって運営する男性の居場所作りなどを進めています。今年 7 月の「包括千寿の郷」の地域ケア会議で、千住地域内 3 つの男性の居場所づくり団体が集まり意見交換を行うと、「もっと交流したい」という意見が多く聞かれました。

そこで、千住地域内の包括が話し合いを重ね、エリア内 6 つの男性の団体が集まり、活動の課題や強みの再認識、団体同士のつながりを作って活動を推進させることを目的とした「男活交流会」を実施する運びとなりました。

一度だけでは終わらない。次に続く交流会に

「男活交流会」には、6 団体 17 名の男性と包括職員等が参加しました。冒頭に自分たちの活動紹介を行いました。活動に対する熱い思いから、制限時間を超過する団体が続出。その後の意見交換の時間でも、「あの団体ともっと交流したい」「自分達がやっていることをもっと地域に広めたい。広報紙や活動の一覧を作成して配布するのはどうか」「今度はもっと多くの人と交流したい」といった意見が聞かれ、とても賑わった会となりました。

交流会後、活動に対する意欲が上がったという声や、自身の活動に反映できるよう他団体の活動に参加する方々が出てくるなど、団体間での交流の動きが出てきています。千住地域におけるシニア男性達の今後の活躍に期待大です。



取材日	平成 30 年 10 月 30 日（火）	参加者数	30 名
取材メモ	1 月には、さらに親睦を深めるべく参加人数を増やした新年会を開催する予定です。現在この企画は、千住地域内の包括が考えていますが、今後は徐々に居場所を運営する男性陣にバトンタッチできればと思います。男活交流会の今後が楽しみです。		
取材者	高橋亮		
問合せ先	地域福祉課 ☎6807-2460		

千寿青葉中学校

高齢者について知ろう「高齢者疑似体験」

「子どもたちに知ってほしい」

千寿青葉中学校1年生の学年行事は、企画するPTA役員の方々の「子どもたちに、おじいちゃん、おばあちゃんのことを知ってほしい」という思いから実現しました。

9月から社協職員と打ち合せを重ね、体験内容は「大勢だけど、みんなに少しでも体験してほしい」ということで、限られた時間の中で、簡単な体験が3つできるよう、工夫しました。

打ち合せで「楽しいかも」「触れてみないと分からない」と、期待の声を上げながら、積極的に取り組んでいるPTAの方々の姿が印象的でした。



ゴーグルを着けて、白内障の体験。普段は問題なく見られる広報紙なども、上手く見えなくて一苦労

「こんな感じなの??？」

「何これ」「(財布からお金が)出せない」等と言いながら、全員が少しずつ、貴重な体験を重ねていきました。

終了後、先生から「今日の授業は、単に高齢者がお話に来ると思っていた生徒もいました」とのこと。中学生にとって、思いもよらぬ体験だったかもしれません。

体験後「お財布からお金を出すのは大変だった。困っている人がいたら、手伝ってあげたい」と、それぞれ、感じる事があったようです。



ジェル手袋を着けて、高齢者の手先を体験。財布から、お金を取り出すのも一苦労

取材日	平成30年11月2日(金)	参加者数	96名
取材メモ	「知ってほしい」という願いが、たくさんの中学生に体験してもらう機会をつくり出しました。大切な時間を共有できたと思います。		
取材者	加納景子、時枝久美子		
問合せ先	地域福祉課 ☎6807-2460		

帝京科学大学×チームあだち

サバイバルクッキングを通じて災害意識を高めよう

災害時は自助・共助と近助（ご近所）が大事！

帝京科学大学医療福祉学科の宮本先生が受け持つ3年生と、防災ボランティア「チームあだち」による“地域の防災を住民と考える企画”が実施されました。

はじめに、「チームあだち」多田代表より「災害時は、まずは『自助』。生き抜くためのサバイバルクッキングを体験します。次に『共助』。ご近所の助け合いが大切です。今日の活動を通じて互いに顔見知りになってください」とのお話がありました。

サバイバルクッキングは、「チームあだち」からの指導のもと、ビニール袋での炊飯とカップケーキ作りを行いました。

日頃の備えは正しい情報と関係づくりから

ケーキが蒸し上がるまでの間、学生による防災クイズを行いました。千住地域の避難所や給水所を防災マップで確認したり、災害時の薬や義歯のことなど実際役立つような情報を短時間で学ぶことができました。

炊き上がったご飯は上々の出来。でも塩分が無いと、たくさん食べるのはつらいことも体感できました。

大学はこの地域の第一次避難所にも指定されています。今後も学生と地域住民が一緒になって防災について考えていける機会を定期的に持つことで、いざという時だけでなく日頃からの連携も強まっていくのではないかと思います。



「お米と水をビニール袋に入れて、
空気を抜いてねー」



取材日	平成30年11月10日（土）	参加者数	33名
取材メモ	区内だけでなく遠方との関係づくりも大規模災害には大切です。この日は「チームかぬま」から、岡山県真備町の水害支援の合間を縫って6人が駆け付けてくれ、「チームあだち」との交流が深まりました。		
取材者	花本洋子		
問合せ先	地域福祉課 ☎6807-2460		

常東地域あんしん拡大推進会議

「高齢者声かけ訓練」で認知症の人を支える地域に

地域ぐるみの取り組みを始めました

「常東地域あんしん拡大推進会議(以下、「拡大会議」)」は、常東地域で地域住民と保健・医療・福祉関係者などが連携して、高齢者を支え合うしくみについて考える場です。管轄の地域包括支援センター「日の出」と「千寿の郷」と共に様々な課題に取り組んでいます。

その一つとして、“認知症の人を地域で支える”をテーマに29年度まで各地域で認知症サポーター養成講座を行ってきました。今年度は実践編として「高齢者声かけ訓練」を行うことになり、住民と医療・介護事業者による実行委員会を立ち上げて準備を進めてきました。

訓練の参加者は、拡大会議の住民メンバー(町会・自治会、民生・児童委員、絆のあんしん協力員など)を中心に35名です。運営スタッフは、地域の医療・介護事業者など40名を超える方の協力を頂きました。

会場は、学園通り千住旭町商店街と東京電機大学の協力を得て、まさにまちぐるみの取り組みとなりました。



実行委員会で検討を重ねました



声かけの勇気をもつために

オリエンテーションで声かけのポイントを学んだ後、商店街に出て、道に迷ったという設定の高齢者役のスタッフに2人1組で声をかけ、会話や持ち物から手がかりを見つけるといった体験をしました。

訓練の一番の目的は「声かけの勇気をもつこと」。振り返りでは、「声をかけても『大丈夫。平気だから』と言われ、どうすれば良いか難しかった。」など率直な感想が寄せられました。一方高齢者役からは「手を添えてくれたり視線を合わせてくれたり、安心できた」という感想も出ました。また「繰り返しやることで身につく。またやりたい」「千住は学生も多いので、ぜひ若い人も交えてやれると良い」など次回に繋がる意見も出ました。1回のイベントで終わらせず、地域全体に広がる取り組みになっていけば良いなと思いました。



取材日	平成30年12月1日(土)	参加者数	約80名(従事者含む)
取材メモ	拡大会議は、これからも医療・介護・福祉の連携により地域包括ケアシステムの推進を目指していきます。		
取材者	花本洋子		
問合せ先	地域福祉課 ☎6807-2460		

いつでも自由研究製作所×そんぽの家 S 王子神谷

地域の中で、心地よく寄り添い合える、つながりに

互いの思いが繋がって

「いつでも自由研究製作所」は、子育て中のママ達が立ち上げ、クラフト製作を通じた多世代交流を行う団体です。多世代交流を目指したきっかけは、代表の重田さんのお母さんが入院した時、娘さんを連れてお見舞いに行くと周りが笑顔になり、「子どものパワーはすごい」と感じたからだそうです。

重田さんから多世代交流の場について相談を受けた足立区社会福祉協議会は、近隣で地域との交流に取り組む「そんぽの家 S 王子神谷（サービス付高齢者住宅）」を紹介しました。さっそく打ち合わせが重ねられ、「そんぽの家 S 王子神谷」を会場にした「クリスマスツリー作製&お楽しみ会」が開催されることとなりました。



寄り添い合えるような多世代交流に

お楽しみ会の当日は、5名の入居者と12名の子ども達が集まりました。緊張からか会話は弾まないものの、制作過程でうまくいかないことがあると、互いに手伝うなど、温かい光景が溢れていました。後半には、子ども達による空手の披露や絵本の朗読会が催されました。参加した高齢者に感想を伺うと、「子どもはカワイイね。元気をもらえたわ」と満面の笑みで答えてくださいました。



地域のつながりが希薄化し核家族化が進む中で、多世代交流できる場は、貴重な存在だと思います。今回のように、地域住民と福祉施設が協働している取り組みが、区内でも増えています。1つの団体ではできないことも、2つ3つとつながることで活動の幅が広がっていくものだと、改めて実感しました。

取材日	平成30年12月8日(土)	参加者数	約30名
取材メモ	「いつでも自由研究製作所」と「そんぽの家 S 王子神谷」の間では、次回開催に向けた話が出てきているようです。継続した交流を通して、どんなつながりが生まれてくるのか、どんな広がりが出てくるのか楽しみです。		
取材者	高橋亮		
問合せ先	地域福祉課 ☎6807-2460		

ふれあいサロン “サロンニューライフ”

活動継続 10 年。編み重ねた近隣同士のつながり

活動継続 10 年を迎えて、感謝状が贈呈されました

「サロンニューライフ」は、ふれあいサロンとして活動を続け、10 年を迎えました。その実績に対し、足立区社会福祉協議会から感謝状が贈呈されました。

サロンを立ち上げたのは、前代表の鈴木さん。元々、介護に関する仕事をしていて、ボランティアとして障がいを持つ方とも関わりを持っていました。その経験から、「人と人とのつながりが大切」と感じ、10 年前に「サロンニューライフ」を立ち上げました。



前代表の鈴木さん(左)と現代表の山下さん(右)

活動を 10 年継続できた秘訣とは！？

前代表の鈴木さんに伺うと、「代表者の高齢化により、退会していくサロンをいくつも見てきた。継続の秘訣は、代表の世代交代です」とのこと。現代表の山下さんも、「年上の人と話をするのが好き。継続していくためなら代表を引き継ぎたいと思った」と当時を振り返ってくださいました。

また両代表より、「みんなの協力があってこそ継続できている」「サロンは、無理せず負担なくが良い」と運営にあたっての秘訣も伺うことができました。

「サロンニューライフ」には 10 年前から参加し続けている方が多く、参加者同士のつながりも濃いです。少し顔を見ない参加者が出てくると、その方の近況について、すぐに情報共有できるそうです。取材当日の最後は山下さんの「いつまでも元気でいましょう。心配なことがあったら相談しましょう」の言葉で締めくくられました。



取材日	平成 30 年 12 月 20 日 (木)	参加者数	12 名
取材メモ	サロンでできたつながりが、日々の暮らしの中でも寄り添い合えるつながりになっているのだと感じました。		
取材者	高橋亮		
問合せ先	地域福祉課 ☎6807-2460		

帝京科学大学×地域包括支援センター千住西 交流を通じた学生の学び場



学生と高齢者で交流

1月11日（金）に、帝京科学大学の医療福祉学科2年生の7名によるイベント「千住カレッジ」が、地域包括支援センター千住西にて行われました。「千住カレッジ」は、大学に地域包括支援センターが協力して実施され、今回で4回目。参加者は、地域に住む高齢者。親しげに学生と会話する参加者の姿が見られました。常連の参加者は、「学生との交流が楽しくて来ています」、今回初めての参加者は、「お友達に聞いて、外に出る良い機会と思い参加しました」と、皆さん様々なきっかけで参加していました。

帝京科学大学の宮本先生は、「千住カレッジは学びの実践の場。地域のニーズにどのように応えるか、学生たち自身で考えます」と話していました。



みんなで記念撮影

頭を使った体操

今回、前半は「ガンバルーン体操」を行いました。体操の内容は学生が考えたもので、椅子に座って音に合わせてながらバルーンを扱いました。「毎回実施するたびに新しい課題が出て、それを学生間で話し合っ解決・工夫してきました」と学生が話していた通り、運動と脳トレがバランス良く組み合わせられた内容だと感じました。



ガンバルーン体操の様子

後半はクイズカルタを行いました。「持つと手が震える家具は何？」の問題に参加者が一斉に考え始めます。ハッと閃いた方が正解の絵が描かれたカルタを手に取り嬉しそうに言いました。「コレね！」

参加者の皆さんの表情が明るくなっていて、口々に「楽しかった」「また来たい」と話していました。

イベント後、学生たちに話を伺うと「回を重ねる毎に参加された方たちとの関係性が出来てきて嬉しかったです」、「実践していく中で、司会が得意だったり、企画ができたりと自分たちの個性を発見でき、それが上手く働いたと思います」と、話していました。

ちなみにクイズカルタの答えは「テーブル」でした。「手」が「ブルブル」震えるから。トンチが効いてますねえ。

取材日	平成31年1月11日（金）	参加者数	約30名	取材者
取材メモ	千住カレッジは、年度毎に学生たちが地域向けの企画を考えます。そのため今回の形での千住カレッジは一旦終了しますが、来年度の2年生の新たな試みが、今から楽しみです。			中村裕介（右） 三浦公男（左）
問合せ先	地域福祉課 ☎6807-2460			

ハート&ハート実行委員会 佐野地域学習センター

地域的一大イベント！福祉まつり「ハート&ハート」

大人も子どもも笑顔になるおまつり

力強い太鼓が響き渡る体育館で「ハート&ハート」が開会しました。ステージでは、ピアノ演奏や特設トランポリン、ダンスなどが披露され、鑑賞する人や体験する人も自然と笑みが溢れていました。

体育館を出ると、車いすや手話、点字の体験コーナーが設置されていて、それぞれを体験するとスタンプを押してもらえ、4つ集めると景品がもらえます。

2,500名を超える参加者で、大変賑やかな楽しいおまつりでした！



自転車の洗車は任せて！
神明障がい福祉施設、高校生ボランティアの皆さん

「今年で23年目の出店なんです」



たくさんの工芸品を並べた出店ブースと
藤親会の皆さん。右端が佐藤会長

そう話すのは籐編みサークル「籐親会（とうしんかい）」の佐藤会長。普段は、竹の塚地域学習センターの作業訓練室でおしゃべりをしながら籐（とう）の蔓（つる）を編んで工芸品にしているそうです。

今年で23回目のハート&ハートには初回から出店しており、ブースには、帽子や小物入れなどシンプルながらも世界で唯一の工芸品が所狭しと並んでいました。籐親会サークルの方が工芸品を見るお客さんと笑顔で交流をしていました！

取材日	平成30年6月3日（日）	参加者数	延べ2,545人
取材メモ	1年に一度の大きなおまつりで、実行委員の方々も張り切って準備を進めていました。天候もよく、スタッフも参加者もいきいきと楽しんでいました。		
取材者	吹野菜		
問合せ先	地域福祉課 ☎6807-2460		

神明南パソコン教室

自宅で憩うパソコン教室

笑い声響く「パソコン教室」を自宅で

「これから先のことを考えると、インターネットでの買い物やメールができるようになりたい」と、「ふれあいサロン神明南ひまわり」の代表である齋藤さんから地域支え合い推進員（※）に相談がありました。話を聞くと「通常のパソコン教室ではなく、近所の皆さんがお話をしたり集まったりするきっかけになるようなパソコン教室を自宅で開きたい」と熱心な思いを語ってくれました。

そこで、地域支え合い推進員としてパソコン講師を探すお手伝いをさせてもらうことになりました。



齋藤さん宅で初めてのパソコン教室

集うことに意味がある

パソコン講師を探すため関係機関へ照会すると、NPO 活動支援センターから「NPO 法人哲学かふえ Param『風』」で活動している笠松さんの名前が挙がりました。

笠松さんと参加者との顔合わせを経て、第一回目のパソコン教室が開催されました。「習ったことを忘れてもいいんです。何度でも同じことを聞いてください、そうすることでだんだん覚えていくから」と笠松さん。「ゆっくりやっていきましょう」という齋藤さんの言葉から、笠松さんも参加者も肩の力を抜き、和やかな雰囲気で行うことができました。



パソコン講師の笠松さん(右)

このパソコン教室を経て参加者からは、「インターネットやメールに挑戦したい」という声があったと共に、参加者にとっての居場所にもつながりました。代表の齋藤さんからは、「このパソコン教室は、継続して続けていきたい」と力強い言葉がありました。（個人宅での開催のため、現在参加者の募集はしていません）

※地域支え合い推進員：地域住民の皆さんと区内の施設や企業と連携し、安心して生活できるように、居場所や見守り体制づくりを皆さんとともに進める職員

取材日	平成30年7月12日(木)	参加者数	6名
取材メモ	齋藤さんの「やってみたい」という思いと笠松さんの「教えたい」という気持ちを地域支え合い推進員として繋げることができました。		
取材者	吹野 葉		
問合せ先	地域福祉課 ☎6807-2460		

綾瀬あかしあ園×むつみ会

屋上のオアシスで園芸ボランティア

人との関わりと自然とのふれあいと

「綾瀬あかしあ園」（以下、園）は、日ごろから地域交流に力を入れている障がい者施設で、地域のまちづくりを目指しています。園には地域住民の憩いの場「Forian ふおらん～森の集い～」があり、平成 29 年 6 月には、屋上に庭園を設けました。

以前から、園ではふれあいサロン「むつみ会」と交流を重ねてきており、「むつみ会」から屋上で園芸ボランティアの提案があった際に、即賛成してもらい実施することとなりました。園の「地域に開かれた施設にしたい」という気持ちと、「むつみ会」の「地域の人や施設と交流したい」という気持ちが重なったことで、活動がスタートされました。（園の利用者と一緒に行う活動は月に 1 回。その他の日には、「むつみ会」のメンバーが枯れ草取りなどのボランティアをしています。）



水やりスタート！

協力し合って笑顔の花が咲きました



どんな花壇になるのか楽しみ

第 1 回目の開催である今回は、「むつみ会」の皆さんが「一緒にやりましょう」と利用者と土おこしをしました。互いに手を取り合い、素敵な庭園になるよう懸命に手入れをされていて、笑顔が絶えない園芸となりました。

金井施設長の渾身の作である自動水やり装置は、暑い夏でも土が乾かずに保つことができるという代物。地域住民が気軽に立ち寄れるような施設になるようにと努力と工夫をこらした屋上庭園からは、園が地域交流にかける本気と熱意が感じ取れました。「園芸に関してはまだまだ初心者なので、『むつみ会』の皆さんに教えてもらいながらお花を育てていきたい」と話す園の春日職員。利用者の中にも屋上庭園の手入れを心待ちにしている方もいて、地域の皆さんにとって庭園が大切な場であることが分かりました。

取材日	平成 30 年 7 月 27 日（金）	参加者数	12 名（利用者含む）
取材メモ	綾瀬あかしあ園と「むつみ会」は、園芸ボランティアの他にも日ごろから地域交流を目的としてさまざまな催しを計画しています。次はどのような交流があるのか楽しみです。		
取材者	吹野菜		
問合せ先	地域福祉課 ☎6807-2460		

パークエンジェルの会

七輪は、遊びや学びの最適な道具

火の扱いは遊びを通して学ぶ

「七輪の日」の活動にお邪魔してきました。
 「パークエンジェルの会（代表：根本葉子氏）」は、足立区内で子どもたちの自由な遊びの場を提供しています。「七輪の日」は、同団体が定期的に行っている活動の一つです。メンバーで元教師の和田さんは、七輪を使って野菜やもちなどの食べ物を焼くことや、ビー玉やミョウバン水で紙に字を書いて火で炙るとどうなるか？など、理科の実験のような遊びを伝えていました。



ミョウバン水で紙に字を書くと・・・
 なんと火にあぶられて字があらわれます

こどもが自由にいられる場所

「七輪の日」では、子どもたちがみんな自由に過ごしていました。

七輪で食べ物等焼く以外にも、数人でカードゲームや会話をしたり、宿題を持ってきて黙々と勉強するなど、それぞれの時間を有意義に活用することができます。

また驚いた事は、片づけを大人主体ではなく、子どもたちが自主的に行っていたことです。「遊びが変われば子どもが変わる」が活動の合言葉です。

「七輪の日」は、月に1回、15時～17時の2時間。飲食店「tree」（足立区谷中1-7-7）の駐車場で開催しています。



大人も子どもも、みんなで七輪を囲みます。
 好きなものを焼いて、笑顔あふれるひとときでした

取材日	平成30年9月12日（水）	参加者数	子ども14名 大人5名
取材メモ	私が小学生の頃、火を使ったのは林間学校でのキャンプファイヤーくらいでした。「七輪の日」では、七輪で物を焼くだけでなく、火のつけ方や片づけ方、安全に火を扱うにはどうしたらよいかを学びました。「次は季節の旬なものを焼こう！」と今後が楽しみな取材になりました。		
取材者	野呂真一郎		
問合せ先	地域福祉課 ☎6807-2460		

人生ココから見本市実行委員会 会社のプロから地域のプロへ！ 居場所を見つける見本市

足立区東部地域で、ひとり暮らし男性の救急搬送が相次ぐ

平成 28 年度末、足立区の東部地域で、ひとり暮らしの男性高齢者の救急搬送が立て続けに起こりました。共通項は「地域とのつながりが希薄」であるということ。

いずれも一命はとりとめました。発見が遅れていたら状況は違ったかもしれません。若い頃から仕事に情熱を注ぎ、定年退職と同時に社会との関係が断たれてしまうことはとても残念なことです。

同じことを繰り返さないよう、東部地域の 4 つの地域包括支援センターが協力して会議を重ねました。



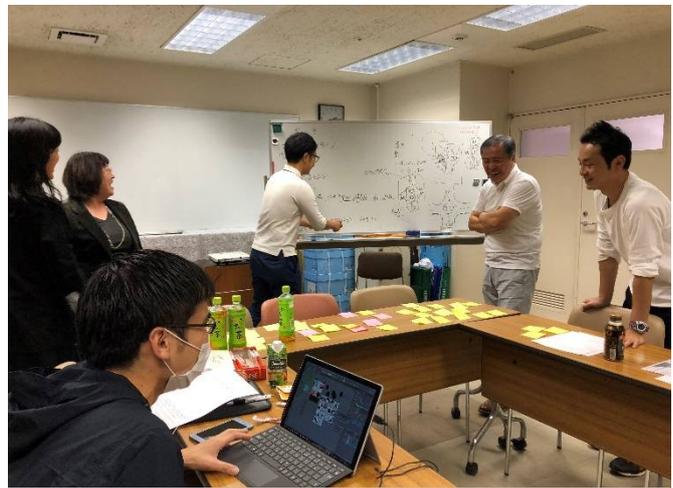
人生ココから見本市実行委員会のメンバー
(委員長 足立ほがらかネットワーク 添田善雄氏)

人生ココから！「東京ホームタウンプロジェクト」で PR カアアップ

「人生ココから見本市」（平成 31 年 2 月 9 日開催予定・会場綾瀬プルミエ）は、地域包括支援センターの議論を土台に、男性シニア層の参加に実績を有する区内 3 つの NPO が参画して生まれた企画です。

東京都「東京ホームタウンプロジェクト」に採択され、取材にうかがった日は、丸一日をかけたチラシの製作日でした。

普段は会社員として様々な分野で仕事をしている方々（プロボノワーカー）と実行委員の熱いやりとりのおかげで、イベント PR のためのチラシができあがりました。



今回、協力してくれた 6 人のプロボノワーカー。普段はそれぞれプロフェッショナルな仕事をしています

取材日	平成 30 年 10 月 20 日（土）	参加者数	20 名
取材メモ	チラシを手にとった方が地域へ踏み出すきっかけをつかむことを期待したいです。		
取材者	堀崇樹、下鳥典子		
問合せ先	地域福祉課 ☎6807-2460		

あやせコミュニティパーク

地域の中の施設であるために

地域の子どもたち、集まれ！

平成30年11月4日（日）、谷中1丁目にある、高齢者複合施設「あやせコミュニティパーク」で「翔裕園の日」というお祭りが開催されました。「地域に開かれた施設でありたい」という思いと、少しでも施設と地域住民がふれあう機会を設けたいということで、今回のお祭りが開催されました。橋副施設長はたくさんの子ども達に来てもらいたいという思いがあり、近隣の保育施設や学校に声をかけました。精力的に周知をした結果、目標来場者数300名だったところ、その倍の600名を超える来場者となりそのほとんどが近隣の子ども達でした。



屋上に動物園？施設でかくれんぼ？

「翔裕園の日」のメインプログラムは「動物園」と「かくれんぼ」。屋上に移動動物園を呼び、小動物に触ったりポニーに乗ったりすることができました。そこでは、子どもたちが喜ぶ表情をたくさん見ることができました。

動物園に並行して「あやせコミュニティパーク de かくれんぼ」が行われました。このかくれんぼは「見守りあいプロジェクト」という徘徊高齢者検索アプリを活用したもので、親子で楽しめるイベントでした。約90名の方がかくれんぼに参加し、施設内に隠れた職員を一生懸命探しました。



取材日	平成30年11月4日（日）	参加者数	640名
取材メモ	このお祭りは施設にとって初めての試みで、「地域の協力によって成り立っている施設なので、参加された方々が少しでも楽しんでいただけるお祭りにしたい」という施設の熱い思いがお祭りの大盛況につながりました。「翔裕園の日」を皮切りに、今後も地域に開かれた施設であるためにお祭りを続けていくそうです。		
取材者	吹野栞		
問合せ先	地域福祉課 ☎6807-2460		

ものくる（加平児童館）

ふらっと！児童館で、子ども服とママ友の交流！

「ものくる」＝物々交換会で生まれるママ同士の交流

加平児童館で「ものくる」が行われているという話を聞きつけ、会場に伺いました。会場ですぐ目についたのはたくさんの小さなかわいい子ども服！代表の荻本さんをはじめとするスタッフの方にお話を伺うと、「ものくる」は物と物との「物々交換会」。日用品、服、本等、不要になった物を提供したり、もらい受けることができるといった活動です。

また季節の工作も行います。この日はクリスマスの小物作りを行いました。お母さん向けのシックな工作をスタッフが考えているそうです。スタッフの方も地域のお母さんで、初めて参加された方に声をかけていて、クリスマスの飾りよりもキラキラ輝く笑顔がとても印象的です。



子ども服を選ぶお母さん達。
子ども服だけでなく、絵本や靴も大人気！

スタッフも参加者も協力して行う活動



クリスマスの小物づくり。
お母さんを手伝うお子さんもいます！

スタッフにも参加者にも、児童館という会場がとても都合が良いようです。お子さんはお母さんのそばで児童館のおもちゃで遊べるため、お母さんは安心して活動できます。また、この日も児童館に遊びに来たことがきっかけで、「ものくる」の活動を知り、子ども服を選んだり、工作に参加するお母さんとお子さんがいました。親子にとって身近な児童館で開催しているため、より活動を知っていただけます。

そのご縁が続き、参加されたお母さんが子ども服を提供する側となり活動が広がっています。参加されたお母さんから「子ども服を受ける側としても、

お渡しする側としても、とても助かっています」とのお話もありました。「ものくる」は今後さらに交流する中で協力者が増えていきそうです。

取材日	平成30年12月4日（火）	参加者数	20名
取材メモ	会場にいる皆が子ども服を提供したりもらい受けたりと、どなたがスタッフなのかわからないくらい「支え合っている」活動でした。		
取材者	川畑彩		
問合せ先	イベント主催者 荻本氏：makieno217@gmail.com		

人生ココから見本市実行委員会

男性の孤立防止の取り組みから始まった、「人生ココから見本市」

地域で課題に取り組むために

東部ブロック（さの、東和、中川、西綾瀬）の地域包括支援センター（以後包括）では、ここ数年男性の一人暮らしの方が救急搬送されるケースが続きました。社会とつながりを持ち、孤立を防止するにはどうしたらよいか、地域課題を住民と一緒に考える“地域ケア会議”にて検討しました。その結果、定年退職後から地域活動に参加するきっかけづくりとして、地域の社会資源や活動団体を紹介する場が必要と考え、人生ココから見本市実行委員会が立ち上がりました。実行委員長は、NPO 法人「足立ほがらかネットワーク」の添田善雄理事長、副委員長は、団塊綾瀬ネットワーク「だんだん」の福田哲郎代表と NPO 法人「ASCC」の山崎利夫理事長です。包括が事務局となり、11 回の実行委員会を重ね、出展団体や協賛企業を募り、仲間を増やしていきました。同時に見本市を支えるボランティアも募集し、キックオフミーティングやイベントにて結束を図ってきました。



12月に行われたキックオフミーティング

雪が降っても大盛況、大人も子どももにぎやかに

見本市当日は雪のちらつく寒い日となりましたが、会場内は多くの人でにぎわい、熱気にあふれていました。10 団体がブースで活動紹介を行い、5 機関が活動相談対応、9 団体が体験ブースを開設しました。12 時のオープニングは相撲甚句で盛り上がり、13 時から 30 分間、井浦コミュニケーションセンター代表の井浦康之氏より「90 歳、人生これから」というテーマで基調講演がありました。講師は 90 歳ですが活気のある話し方で地域活動の後押しになったかと思えます。その後カルビー株式会社より「噛むことの大事さを学ぶ」、足立区郷土博物館より「足立ジモト史」の講座が開催されました。16 時に終了後、「NHK2020 応援ソングプロジェクト」のテーマソング「パブリカ」を子ども達が披露し大人も子どもも一緒に盛り上がり、今後の地域活動への意欲を高める地域福祉活動フォーラムとなりました。また、92 名のボランティアが支えてくださり、関心の高さがうかがえました。



たくさんの人でにぎわう会場

取材日	平成31年2月9日（土）	参加者数	780名
取材メモ	地域住民と一緒に地域課題の解決にむけて取り組み、各種団体とのネットワークにより、大盛況に終わりました。次の展開が期待されます。		
取材者	戸谷純代、大竹光夫、野呂真一郎、亀田明子		
問合せ先	地域福祉課 ☎6807-2460		

コワーキングスペース タイニーポート イベントを通して地域を盛り上げます



地元で人と人がつながる場

足立区神明南にある「タイニーポート」の取材に行ってきました。ここは一軒家を利用したコワーキング（※）・イベントスペースとして提供しています。

代表の竹越さんをご自身の子育ての体験から、地元でフリーランスや在宅ワーク等の活動の場として人が集まり、そこから繋がることのできるスペース作りをしたいという想いで2017年9月に立ち上げました。



今回はIT勉強会

イベントのことならまかせて

取材に行った日も参加者の方々が集まり、ホームページ制作やワークショップの共有など色々な会話が飛び交う中で楽しくお話を聞くことが出来ました。

「タイニーポート」は活動を広げていくために様々なイベントを主催していて、ゲーム大会やジギスカンを食べる会など、盛り上がるイベントをたくさん企画しています。

竹越さんに今後実現したい事をお聞きしたところ、「『タイニーポート』を通じて自立を目指せる、働き方改革のきっかけ作りを行っていきたい」と熱く語っていただきました。



わきあいあいと会が進みます

※コワーキング：集まったメンバーが場所を共有しながら独立した仕事を行う共働ワークスタイルのこと

取材日	平成31年1月27日（日）	参加者数	2名
取材メモ	私も取材させて頂き、年齢性別問わず多くの仲間達との繋がりが広がる場所だと実感しました。皆さん是非一度「タイニーポート」に足を運んでみてください！		
取材者	ささえあいリポーター 池田裕司、渡辺悦子		
問合せ先	地域福祉課 ☎6807-2460		

ふれあいサロン “サロンいろいろ”

男性高齢者が地域に参加する工夫！

「男性高齢者の孤立」が地域の課題



40名を超える参加者から、多くの意見をいただくことができました

現在足立区では、地域との関わりが少なくなっている男性高齢者が増えています。地域包括支援センター鹿浜の地域ケア会議（地域の課題解決についての会議）では、5月に「男性の地域参加」について参加者が意見交換を行い、「男性は一人だとなかなか参加は難しい」「口コミが一番効果がある」など多くの意見が出されました。

この会議を受け、男性の地域参加に動いたのは、谷在家団地第2集会所で行われている、ふれあいサロン「サロンいろいろ」。このサロンは第3木曜日に開催をしていますが、男性の参加がなかったことから、第3木曜日に

加えて、第1木曜日にも男性参加限定の開催日を増やしました。

サロンいろいろの「親父のカラオケ」

2月の初開催となる第1木曜日、会場に集まったのは8名の男性。サロンを創設した看護師の資格を持つ三輪代表の支援で、参加者は血圧を測定し、記録表に記入しながらサロンの開会を待ちます。血圧を測ることで安全に参加できるだけでなく、長い期間での健康状態を確認するためです。

サロンが始まると、三輪代表やスタッフから参加者に、「皆で歌友（うたとも）を増やしましょう！」と声掛けがあり、交流をしながら「親父のカラオケ」と銘打たれたカラオケを行います。また、小さくシンプルな名札を準備したり、複数回連続で参加すると賞品がもらえるシステムがあったりと、男性が参加しやすい細やかな工夫がたくさんあります。参加者からは「こういう企画があるから外に出るんだよ」といった声が聞かれました。



カラオケ機械を操作し、サロン運営を手伝ってくれる参加者も

取材日	平成29年5月17日（水） 平成30年2月1日（木）	参加者数	5月17日40名、 2月1日8名
取材メモ	男性限定にしたことで、男性がより参加しやすくなったと感じました。今後もさらに男性参加者が増えることが予想され、サロンいろいろが大きく発展していくことを願います。		
取材者	川畑彩		
問合せ先	地域福祉課 ☎6807-2460		

あだちガイドヘルパーの会 みんなで体験、アイマスク！

舎人公園で防災フェスタ！

大規模災害の活動拠点として、位置づけられている舎人公園にて「防災フェスタ 2018」が開催されました。当日は子どもや高齢者、障がい者など「災害時に配慮が必要な方への支援」をテーマにした20カ所のブースが設けられました。

東京都公園協会から足立区総合ボランティアセンターに「障がい者に関係するブースの運営をしてくれる団体を紹介して欲しい」と依頼が入り、「あだちガイドヘルパーの会」が体験ブースの一角を担うことになりました。

当日は、春の日差しがいっぱいの中で家族連れや友人同士など、多くの方が来園され、思い思いに様々なブースを訪れていました。



準備をするガイドヘルパーの会の皆さん

アイマスク体験（※）で障がい者理解を！

「あだちガイドヘルパーの会」が担当したブースでは、視覚障がい者への理解を深めることを目的に「アイマスク体験」を行いました。

ブースには来場者が途切れることなく訪れ、子どもから高齢者まで約 250 人の幅広い年齢層の方に体験してもらうことができました。「『あっち』や『そっち』ではなく、具体的に声かけしてほしい」「少しの段差でも怖かった」などの感想が聞かれました。

「あだちガイドヘルパーの会」の小林会長は「健常者であっても、災害時には平常心を失う。障がい者はそれがより顕著になる」と話していました。「今後もより多くの人に視覚障がい者のことを理解してもらえるように頑張っていきたい」という強い思いが伝わってきました。



体験を通して学ぶ少年

※「アイマスク体験」…アイマスクと白杖を使った目が不自由な方の疑似体験

取材日	平成 30 年 3 月 3 日（土）	参加者数	約 250 名
取材メモ	体験者からは様々な意見を聞くことができましたが、そのどれもが「障がい者の理解」に繋がる一歩であると感じました。		
取材者	中山勝友、吉清健太郎		
問合せ先	あだちガイドヘルパーの会（足立区総合ボランティアセンター） ☎3870-0061		

ふれあいサロン “体操クラブつどい”

効果があるからこそ、続けたい

モデル事業からの自主化

平成 29 年度に、住民主体の体操の場としてのモデル事業実施したのが「体操サロンの効果測定」。その一つが、障がい者の福祉施設である谷在家福祉園をお借りした谷在家会場でした。興本倶楽部の大野先生の指導の下、7月より3カ月間、毎週金曜日に体操を行い、その効果を測りました。たった3カ月であっても、その効果は明らか！自身の身体の変化から、「モデル事業が終わっても体操を続けたい」という参加者が多く、事業終了後、3カ月間延長することとなりました。



モデル事業の様子。みんなで貯筋運動を行いました

しかし、その延長期間も終了間近となり、「このまま延長し続けることはできない」という問題に直面。今後どうするか意見交換したところ、「これからも体操を続けたい」と強い希望を皆さんが持っていることから、ふれあいサロンとして自分たちで自主運営していくことで話がまとまりました。

「体操クラブつどい」スタート

先生に指導してもらう日を減らし、先生が来ない日を自分たちだけで運営していく形で、平成 30 年 3 月から「体操クラブつどい」がスタート。参加者の中から 10 人がスタッフとして、順番にサロンの運営を回していきます。「自分たちだけで本当にやっていけるだろうか・・・」と、不安いっぱいでしたが、これまで先生に教えていただいた体操をみんなで確認し合いながら、和気あいあいと楽しくサロンを実施できました。



サロンに参加されていた体操クラブつどいの参加者&スタッフの皆さん

皆さんが体操サロンを続けたいと強く思われたのは、自身の体力が上がったことに加え、週に 1 回通う中で、たくさんの方と知り合いになったこともあるそうです。これからも「体操クラブつどい」として、体力アップと参加者同士の交流の輪を広げたいとおっしゃっていました。

取材日	平成 30 年 3 月 9 日（金）	参加者数	13 名
取材メモ	笑い声あふれる楽しいサロンでした。たくさんの方の方に参加していただいて、心も身体も元気になってもらいたいと思いました。		
取材者	平めぐみ		
問合せ先	地域福祉課 ☎6807-2460		

就労移行支援センターフリーデザイン

親子で楽しむセカンドステップ講座

セカンドステップを活用した地域貢献

「フリーデザイン」は、就労を希望する障がい者に各種スキルを身に着ける講座やトレーニング、企業への仲介などの支援を行っています。「フリーデザイン」が「地域教育」という視点から月に2回、無料で親子に向けて行っているのが「セカンドステップ」です。セカンドステップはアメリカ発祥のプログラムで、非行に走る青少年は、幼少期に親子の間で必要なコミュニケーション術が学びきれていないという実態から、未就学児がそれらのスキルを身に着けられるように、と考えられています。子どもたちはプログラムを通し、自分の気持ちをコントロールすること、相手に暴力を振るわないことなどを学びます。また、セカンドステップに親子で参加することによって、親は子どもへの接し方、声のかけ方を学ぶ機会にもなります。実際に、「自分の夫にも学んでもらいたい!」と、途中からご主人も一緒に参加されている方もいるそうです。



写真に写る子どもの顔や場面などから、どんな気持ちなのかを考えます

お母さんたちのステップに

セカンドステップの後は、お母さんたちの癒しの時間です。子どもたちがスタッフと遊んでいる間、お母さん向けの講座を行います。育児のために休職や退職した様々なスキルを持つ参加者が、ネイルアートやヨガなど自分の特技を披露し、参加者同士で交流します。この場がお母さんたちにとっても次のステップへの足がかりになっています。

今後の展望を代表の渡辺さんに伺うと、「社会貢献をしようと思っても何をしたいかわからないという企業は多い。そういった企業にこの場をうまく活用してもらいながら、一緒に地域を創っていけたら」とおっしゃっていました。



取材日は、お母さんたちに向けて職員によるアサーション講座が行われました。日常生活で役に立つ表現方法を学びました

取材日	平成30年5月19日(土)	参加者数	6名
取材メモ	セカンドステップは子どものためだけでなく、お父さんお母さんにとってもステップアップできる場、交流の場となっているのが素敵だと思いました。今後の企業とのコラボも楽しみです。		
取材者	平めぐみ		
問合せ先	セカンドステップへの参加等について 就労移行支援センターフリーデザイン ☎5888-2230		

足立-70-G

ソフトボールで地域の輪を広める

活動と名前の由来について

環状七号線では、大型トラックのタイヤが転がる摩擦音と、セミの声が耳に届く一方、環七沿いの南椿公園内の少年野球場では、爽やかな掛け声と乾いた金属音が響き渡ります。創設 15 年にもなる「足立-70-G」は、平日の午前 9 時 30 分～正午（夏期は 11 時まで）の時間にソフトボールを楽しんでいます。名前の由来は、70 歳越えのおや「G」（おやじ）が中心になっているから、というユニークなもの（しかし、改名を検討中とのこと）。最高齢参加者は 86 歳で、「動ける範囲で頑張っている。みんな良い人で毎日参加するのが楽しみ」と笑顔で話してくださいました。



鋭い打球連発！
練習は主にバッティングと紅白戦

地域住民を巻き込むストーリー

以前、練習の様子を立ち止まって見ている男性に声をかけたことがきっかけで、参加するようになった方がいます。その男性にお話を伺うと、「家の中でテレビを見ている毎日でうつ傾向にあったが、あの時に声を掛けられ、ここに参加して運動するようになり気持ちの落ち込みが少なくなった」と光る汗を拭いながら教えてくださいました。代表の玉屋さんは、「健康的に皆で楽しむのがテーマ。未経験者でも気楽に関わり、その人のペースで楽しめる大切な場のひとつとしたい」と想いを語ってくださいました。また、ソフトボール以外にも月に一度、親睦のためにカラオケや飲み会を行っています。現在、老若男女を問わずメンバーとマネージャーを募集中で、飛び入り参加も大歓迎だそうです。



25 歳～86 歳まで幅広い世代の参加者。
皆さま、爽やかで素敵な方です！

取材日	平成 30 年 6 月 26 日（火）	参加者数	14 名
取材メモ	地域で拡大していく仲間づくりや居場所づくりには、最適の和気あいあいとした雰囲気、溶け込みやすさを感じました。		
取材者	木村紘輔		
問合せ先	足立-70-G 代表 玉屋氏 ☎3899-8732		

西新井地域ふれあいサロン

作って遊ぼう！！むかしあそび

夏休みの思い出を地域の高齢者つつむぐ

バルーンアートのカラフルな風船を小さな体いっぱい抱えた男の子は、「帰ったらお母さんに見せるんだ」と、こちらの目がつい細まる笑顔でサロン運営者に風船を掲げて見せていました。

「作って遊ぼう！！むかしあそび」は、サービス付き高齢者向け住宅「銀木犀 <西新井大師>」を会場に西新井地域で活動する8つのふれあいサロンが主体となり開催したイベントです。紙吹き矢、ゴム鉄砲、紙相撲、折り紙のコマ、バルーンアートのブースがあり、前半に工作し後半では自分が手掛けた作品で競い合いました。



大人気！バルーンアートコーナー

核家族化により多世代交流が減った今だからこそ！



紙相撲！さあ、迎えた千秋楽
横綱をかけ、白熱した一番！

足立区は 23 区でも少子高齢化が顕著で、町会自治会の加入率も年々減少傾向にあります。「核家族化が進行し、地域の高齢者と子どもの接する機会が減っている今だからこそ、遊びを通じて子どもたちと交流したい」と、地域住民でもあるサロン運営者の想いが今回のイベントにつながりました。

サロン運営者も、子どもたちに楽しんでもらおうと意気込みつつ、自分たちも一緒に楽しんで、大人も子どもも終始、笑顔で賑やかな声に包まれたイベントになりました。

取材日	平成 30 年 8 月 22 日 (木)	参加者数	51 名(子ども 42 名)
取材メモ	家族や地域の方との会話で、世代ごとの遊びについて関心をもった子が、今回のイベントのことを話してくれたら、多世代交流のきっかけになるのでは、と期待しています。		
取材者	木村 紘輔		
問合せ先	地域福祉課 ☎6807-2460		

足立区主催認知症予防PRイベント

あだち脳活フェスタ in 「アリオ西新井」

早めに 楽しく 一緒に 認知症予防！

9月になり初めての日曜日に、「アリオ西新井」の1階で足立区主催の認知症予防PRイベント「あだち脳活フェスタ」が開催されました。専門家による相談コーナーや、介護の現場で活躍中のロボット展示、脳トレ体験、アリオ店内をめぐるクイズラリーなど、「早めに 楽しく 一緒に 認知症予防！」をテーマに、大人も子どもも楽しめる体験型の催しが盛りだくさんのイベントでした。その日たまたま買い物に来たお客さんも、会場の盛り上がりで足を止めて参加をされていました。



スポーツスタッキングに白熱する仲良しご夫婦

認知症になっても安心して暮らし続けることができる地域づくりを目指して

今回のイベントに企画から携わっていた認知症地域支援推進員(※)からは、「認知症予防というと少しネガティブな印象がありますが、行政だけでなく、企業・関係団体でできることを無理しないで取り組むことが大切であり、どの年代も認知症を理解することで、認知症になっても安心して暮らし続けることができる地域づくりを目指したい」という力強いコメントを頂きました。

足立区社協としてもこのような認知症予防の取り組みを応援していきます。老い支度やアクティブ・エイジングなどを取り入れた出前講座や区民が地域活動に参加しやすい情報提供等を積極的に実施していきます。



考案者の高尾先生実演「あだち・らくらく体操」

※認知症地域支援推進員：医療機関や介護サービス及び地域の支援機関の間の連携を図るための支援や、認知症の人やその家族を支援する相談業務などを行います。足立区では、5つの地域包括支援センターに配置しています。

取材日	平成30年9月2日(日)	参加者数	3,000名
取材メモ	足立区でも高齢者数が年々増加し、福祉人材の不足による高齢者への介護問題や認知症への理解不足などが問題視されています。このような取り組みが世代を問わず行われている足立区は、大変頼もしいと感じました。		
取材者	平めぐみ、結城宣博		
問合せ先	地域福祉課 ☎6807-2460		

あだち子ども食堂 たべるば

「孤食」と「固食」を減らし、心地いい居場所を目指して

一人でも多くの子どもに、楽しい食卓を味わってほしい

「あだち子ども食堂たべるば」は、平成30年5月から月2回（毎月第1、第3月曜日17時から20時）、「ギャラクシティ」1Fものづくりガレージで開催されています。

東伊興住区センターで活動する「あだち子ども食堂」の長場さんに「2号店を出したいんだけど、手伝ってもらえない？」と声をかけられたのが、「たべるば」で女将を務める川野さん。足立区が進める子どもの居場所を兼ねた学習支援の現場で仕事をしている川野さんは、普段一人で食事をする子ども

は、みんなで食べることの楽しさを知らず、同じものばかり食べていることが気になっていました。「子ども食堂を通じて、一人でも多くの子どもたちに楽しい食卓を味わってほしい」と、お話をもらってすぐに、新しい子ども食堂を手伝うことに決めたそうです。



代表の長場さん（左）と、女将の川野さん

食べることを通じての、つながりづくり

食堂の開催には、食材の提供や寄付、事前準備、当日の調理など、多くの方々の協力があります。大人たちに交じって活躍するのが、川野さんが学習支援の場で知り合った中高生。小さな子どもの遊び相手になったり、食事が終わった子どもたちに工作を教えたりと、食堂の担い手としての役割を持ちながら、いきいきと活動しています。

「今は親子連れの参加がほとんどだけど、続けていくことで、一人でご飯を食べている子どもにつながっていけると信じている。『たべるば』で知り合った子どもたちに、次は自然の中で工作や遊び、体験をさせたい」と、今後の展望を、川野さんは目を輝かせながら話してくださいました。



取材日	平成30年9月3日（月）	参加者数	34人
取材メモ	取材日のメニューのオムライス、子どもたちからのリクエストで決まったそうです。みんなで食べるおいしいごはん、子どもたちはニコニコ笑顔いっぱい。楽しい食卓でした。		
取材者	平めぐみ		
問合せ先	あだち子ども食堂たべるば 【Eメール】 adachitaberuba@gmail.com 【ホームページ】 https://adachi-taberuba.wixsite.com/index		

西新井緑町会

町会内の事業所と清掃を通じた地域の見守り

まちをきれいに、地域をつなぐ

毎月第2日曜日午前10時から11時、西新井緑町会内の4カ所の公園のうち、月替わりでひとつの公園の清掃活動を行っています。20年以上も継続しているこの活動は、町会員を中心として、住民や町会内にあるグループホームの「じゃすみん西新井」も巻き込み、毎回50名以上もの参加者が集っています。お子さんからお年寄りまで参加しており、地域で多世代の顔と顔の見える関係をつなぐ、貴重な情報交換の場にもなっています。

また、参加者からは「公園で活動するのは気持ちが良い。いろいろな人が声を掛けてくれるので楽しい」と話してくれました。



天候にも恵まれ、清掃活動開始！

想いのある見守り

町会長の中田さんは地域の高齢化率の高まりや、これから認知症になるかもしれない地域の住民を危惧しつつ、「月に一度だけど、認知症の方も大らかにみていく」「いつも来ている人が来ないと心配で連絡をすることもある」と語ってくださいました。「じゃすみん西新井」の管理者小南さんは、「町会からお声掛けいただいて参加できています。地域の人と関わることで、地域の人に利用者様が『じゃすみん』の人と分かっていただけいている」と地域の見守りや必要な方への声掛けの必要性を話してくださいました。



西新井緑町会のメンバー

取材日	平成30年10月7日(日)	参加者数	50名
取材メモ	清掃活動が終わると、町会員の方が飲み物とアイス、お花を配っていただきました。地域の人を巻き込んで見守りや声掛けをすることを意識していることが伝わりました。		
取材者	木村紘輔		
問合せ先	地域福祉課 ☎6807-2460		

西新井地域ふれあいサロン

西新井地域ふれあいサロン交流会～ちいきの輪～

8つのサロンと6つの協力機関が参加し、広がりを見せる交流会

ドラムサークルや大正琴の演奏、懐かしの曲の合唱と共に参加者皆様の笑顔が会場に広がります。西新井地域のふれあいサロン交流会は29年度から始まったイベントです。8つのふれあいサロン「サロンあじさい」「大人の隠れ家銀木犀」「チューリップ」「西新井いきいきサロン」「西新井男師」「若松さんち」「サロン栗の実」「しゃべり場Kカフェ」（以下、サロン）が主催となり、日頃のサロン活動を紹介しました。当日は、会場となった「ギャラクシティ」にスタッフ、関係機関などを含め昨年度より多い97名の参加者で賑わいました。



サロン関係者や職員も含め、参加者総数は97名！

住民も一緒に楽しみ、ちいきの輪づくりの萌芽となっていく

主催の各サロンがブースを設置し、ドラムサークル体験や健康麻雀、工作、写真展示などの体験で会話が弾み、参加者とサロン関係者、関係機関で交流を深めていました。参加した近隣住民からは「楽しくて次も来たいわ。また明日やってくれないかしら」と柔らかい笑顔で、身ぶり手ぶりで語りかけてくれました。

後日、交流会の参加者から「〇〇に住んでいるが、近くのサロンに参加したい」という問い合わせがあり、その場の楽しみだけでなく、交流会を通じた地域のつながりを強めることもできています。



親しみやすく、参加しやすい雰囲気をつくる各サロン代表の皆様

取材日	平成30年10月19日（金）	参加者数	97名
取材メモ	「うちの地域でこんなことやってたんだね」と笑顔で語る参加者もいました。振り返り会で、西新井地域のさまざまな会場で巡業する案が挙がり、知ってもらおうきっかけになり、今後の展開が楽しみです。		
取材者	木村紘輔		
問合せ先	地域福祉課 ☎6807-2460		

コミュニティ賃貸住宅 PARCO CASA

賃貸住宅から広がる地域のつながり

入居者は必ず町会に加入

西新井本町3丁目の「PARCO CASA（パルコカーサ）」は、「町会への加入が入居の条件」という、賃貸では珍しい条件が付いたメゾネットタイプの住宅（6棟11戸）です。祖父の代から長年銭湯として地域の住民に親しまれていたこの場所を、新しい時代にどう活かしていくのかを考えた田口3兄弟（オーナーの息子、西新井15部町会役員）は、「入居者が地域の一員として交流できるコミュニティ」を目指した賃貸物件を建てることを決め、町会への加入を入居の条件としました。

地域づくりは子どもたちから

「地域づくりは、いかに子どもたちを巻き込むかだと思っている」と、長男の昌宏さん。地域のイベントに子どもが出たいと言えば、必然的に親も参加することになり、そこから親同士の交流が生まれ、地域のネットワークが広がっていきます。「PARCO CASA」の入居者は子育て世代が大半で、0歳児から高校生まで幅広い年齢の子どもたちが、毎日顔を合わせて一緒に遊びながら育っています。2カ月前に入居された方は、子どもが生まれてから地域のつながりが大切だと感じるようになり、ここに入居することを決めたそうです。

「自分たちがそうだったように、地域で子どもたちを育てることが重要。そうすると、その子どもが大人になったときに、担い手として地域のことを考えてくれるようになる」と昌宏さん、宗孝さん。「PARCO CASA」で育った子ども

たちが田口3兄弟のように、将来、この地域を盛り上げてくれることが楽しみです。



「PARCO CASA」では、春・秋の年2回、入居者のみなさんでバーベキューを行います
(バーベキュー後の集合写真)



町会のお祭りや防災訓練などに、町会員として入居者も参加します
(左が長男の田口昌宏さん、中央が入居者の首藤さん、右が三男の田口宗孝さん)

取材日	平成30年10月21日(日)	参加者数	約40人
取材メモ	取材日に開催された秋のバーベキューでは、段ボールを利用した燻製づくりや、デザートのカレーづくりなど、子どもたちの心をつかむ企画が用意され、大人も子どもも楽しめるイベントでした。		
取材者	平めぐみ		
問合せ先	地域福祉課 ☎6807-2460		

江北一丁目第三自治会

わきあいあいとした交流と美味しい食事

絆を感じる交流会

江北一丁目第三自治会は独居の高齢者が多い中、孤立防止策として月に2回、自治会内の集会場で食事会とカラオケを行っています。この会の魅力は、お互いを気にかけて優しく労わり合っていることです。カラオケは各々が歌いたい曲をリクエストして順番に歌っていくスタイルです。また、歌の上手なスタッフの方が先生になってみんなで課題曲を練習しています。大きな声を出して新しい曲を覚えるのも楽しみという声も聞かれました。参加される方の中には病気療養中の方や入院で体力の落ちてしまった方もいらっしゃいますが、カラオケのおかげで経過が順調だと話していました。



運営スタッフさんと唯一の男性参加者さんです

大好評の手作りランチ

この会の最大の魅力は何と言っても手作りで振る舞われるランチです。運営スタッフの方々が手間暇かけてレストラン並みのランチを振る舞ってくれます。会費はたったの300円ですが、オシャレで彩り豊かなバランスのとれたランチをお腹いっぱい食べられます。発足してから1年以上経ちますが、毎回違うメニューだそうです。

参加者の方々の普段の食事が和食中心であろうと考えて、洋食や珍しい食事を出すようにしているとのこと。当初、食事の提供は予定になかったようですが、限定で行ったランチがあまりにも好評だったため、今も継続されています。楽しいカラオケとあたたかい手作りランチが、参加者の方々の心をつかんで離しません。



取材日は一晩寝かせたキーマカレー
絶品中の絶品でした

取材日	平成30年11月16日(金)	参加者数	約25人
取材メモ	絶品ランチと元気なカラオケで、笑顔の絶えない空間でした。		
取材者	高橋美紀、佐藤美穂子、平めぐみ		
問合せ先	地域福祉課 ☎6807-2460		

ふれあいサロン “ぐらんぱ扇”

「初心者でも参加できる」と大盛況



健康麻雀で住民同士が交流

平成31年2月6日（水）は、あいにくの雨模様であった。それでも開始時間の午後1時30分には、介護福祉施設「ゆうあいの郷 扇」の食堂で開催される「ぐらんぱ扇」に三々五々と参加者が集まり、その日用意されたマージャン卓の7つが満席になる28名ほどが席についた。



初心者に分かりやすく教える男性スタッフ

昨年9月にこの会が始まった時に、初めてパイに触れた初心者から、既に若いころにこのゲームの経験のあるベテランまで様々なランクの人々が、それぞれに教え合って、楽しんでいる。



毎回多くの人でにぎわっている

午後1時30分からの2時間の間に、役の種類やその揃え方などを経験者に教わりながらゲームを進めている。初心者の3人と経験者1人の卓がいくつも作られて、何かわからない事があるとその都度経験者の指導を受けていた。その間に1回でも手が揃い上がりになった初心者の喜びはすごかった。特に点数(棒)のやりとりをしないテーブルもあり、その役づくりを

楽しんでいるようだった。その一方、役とあがり方などによる細かい点数の数を示す表や本などを持参して、その都度正確な点数(棒)をやりとりしているグループもあった。

この会はスタッフはすべて男性だが、参加者は半数以上が女性で終始盛り上がっていた。

ぐらんぱ扇	開催場所：ゆうあいの郷 扇（扇一丁目） 開催日時：毎週水曜日（第5を除く）午後1時30分～3時30分 参加費：100円
-------	---

取材日	平成31年2月6日（水）	取材者	
参加者数	28名	杉浦啓之	
取材メモ	サロンの会場は、ゆうあいの郷の利用者用駐車場を奥へ進んだ建物で、初めての方は看板を目印に行くといいと思いました。でも一度行ってみれば、大勢の人がテーブルに座って楽しんでいます。是非お気軽にお出掛けください。		
問合せ先	地域福祉課 ☎6807-2460		

社会福祉法人あだちの里 竹の塚福祉園

住区センターの活動団体が集う地域交流会

互いにとって良い機会に

知的障がい者の通所施設である竹の塚福祉園では、地域貢献活動として地域交流会を企画しています。

今回取材をしたのは今年度初回の開催で、2時間のうち前半は健康体操、後半は近隣の住区センターで活動する方々の発表の時間となりました。

「ボランティアの方々などの活動披露の場として地域交流会の時間を活用してほしい」という竹の塚福祉園の思いを受け、足立区住区推進課や社会福祉協議会が協力し、4つの住区センターが集まりました。近隣住民や住区センター関係者など多くの参加者で、会場は大賑わいでした！



健康体操でみんな元気！



保塚住区センター(フラダンス)



島根住区センター(ハンドベルの会)



東伊興住区センター(リズムダンス)



伊興住区センター(民謡)

参加者からは、「発表目バラエティに富んでいてよかった」などの声もあり、盛り沢山の内容で楽しめた方が多かったようです。

各住区センターで元気に活動しているみなさんですが、練習の成果を披露する場が少ないこともあり、今回の地域交流会は良い機会になりました。

他の住区センターの活動を知り、交流

することで、さらに自分たちの活動が活発になるのではないかと感じました。

取材日	平成30年5月19日(土)	参加者数	約70名
取材メモ	違う地域でもこのような交流の機会が広がると良いと思いました。		
取材者	齊藤愛実、花本洋子		
問合せ先	竹の塚福祉園 島貴公宏 ☎5831-1741		

平成 29 年度ここあだちカレッジ（秋コース）卒業生

さくら
サロン作食楽

「地域の居場所の作り方」を受講して

総合ボランティアセンターが主催する「ここあだちカレッジ」は、福祉に関するさまざまな講座を受講することができ、毎年多くの方が卒業しています。

「サロン作食楽」は、平成 29 年度のここあだちカレッジ（秋コース）を卒業したみなさんで立ち上げたサロンで、地域での居場所作りの必要性を実感し、いきいきと健康に暮らすためには“食べること”が最も重要であると考えました。



“さくら”の下でサロンの打合せです

高齢で料理が大変な男性でも簡単に作れる一品として、「まごわやさしい（※）」をコンセプトに毎回の食事をスタッフが愛情込めて作っています。

みんなで食べると何倍も美味しい

地域の民生委員も気になる高齢者を誘い、一人暮らしの方も参加しています。一人で簡単に済ます食事もみんなで楽しくおしゃべりをしながら食べると、さらに美味しく感じられます。今日のレシピを聞いて「家に帰ったら早速作ってみるよ！」と嬉しそうに話す方もいました。



よく噛み、よく喋り大忙し！

「ここあだちカレッジ」で知り合ったほかの仲間とも交流が続いており、スタッフの堀内さんは「せっかく『ここあだちカレッジ』を受けたのだから、このサロンをきっかけに他のスタッフにもサロンを始めてほしい！」とおっしゃっていて、とても頼もしく感じました。

※まごわやさしい＝まめ、ごま、わかめ、やさしい、さかな、しいたけ、いもの頭文字

取 材 日	平成 30 年 5 月 22 日（火）	参加者数	8 名
取材メモ	味付けもすべて美味しく、真似できそうな料理が並んでいます。男性も気軽に参加できるサロンです。		
取 材 者	齊藤愛実		
問合せ先	堀内英男、洋子 ☎3884-2541		

地域包括支援センター保木間×竹の塚あかしの杜 男心をくすぐる“男だけのそば打ち”

男性高齢者の孤立防止のための取り組み

足立区内の地域包括支援センターでは、男性高齢者の社会参加のために住民と話し合いを重ねながら様々な活動に取り組んでいます。

地域包括支援センター保木間では“男だけのそば打ち”を企画し、第3回目の開催を迎えました。そば打ち同好会の方が打ち方を教えています。

初回と第2回目は花畑地域学習センターでの開催でしたが、今回は竹の塚あかしの杜の地域交流室を借りることができました。キッチンがある広いスペースで、施設の地域貢献として貸し出しをしています。

竹の塚あかしの杜の三瓶施設長は「地域の方に使っていただけて嬉しい！これからも定期的に使ってもらえると良いですね」とおっしゃっていました。



毎回違うそばの味



5名のうち1名が初参加で、女性からも「そば打ちやってみたい！」との声があったそうですが、残念ながら男性限定。汗をかきながら一生懸命にそばを打ちます。

どの工程が一番難しいか聞いてみたところ、「硬さだねえ。こね終わった時の硬さの感覚をつかむのが難しい」とのお答え。3回やってもまだまだつかめないそば打ちのコツ。奥が深いです…。そんなところが男性の心をつかむポイントなのかもしれません。

今後は参加者のみなさんで自主運営を目指して活動していきます。新たな参加者も増え、そばのように細く長く続いていくことを願っています。

取材日	平成30年6月23日(土)	参加者数	5名
取材メモ	自分が打ったそばの味は格別！はまる理由がわかった気がします。		
取材者	齊藤愛実		
問合せ先	地域包括支援センター保木間 ☎3859-3965		

ふれあいサロン “マハロ”

歌とともに一周年。口ずさむメロディ

わずか一年で参加者倍増

「ふれあいサロン マハロ」は、平成29年7月に立ち上がったサロンで、みなさんが知っている懐かしい歌や季節の歌を歌ったり、歌に合わせた体操をしています。

カラオケ付店舗の空き時間を利用して、地域の方が集い童謡や唱歌を歌いながら楽しく過ごせる居場所を作りたいという石松さんご夫妻の思いから始まりました。

最初はお店の常連さんや知り合いの方の参加でしたが、口コミ効果で参加者はとても多くなりました。一周年を迎えた「ふれあいサロン マハロ」に訪問してみると、店内は満席状態！いつの間にこんなに賑やかになったのかと驚きましたが、皆さんにとって居心地の良い楽しい居場所になっているのだと感じました。



毎回恒例の体操です

特技を活かした手作りの看板

「ふれあいサロン マハロ」の入り口にはかわいらしい看板が立てかけてあります。これは、サロンが立ち上がるにあたり、「地域包括支援センター—ツ家」の職員が声をかけて、ご近所に住む男性で絵画が得意な方が作ってくださったものです。

地域のための場所やそこに集う人はさまざまですが、ご近所や地域との接点がない人も、得意分野を活かせるところがまだまだありそうです。



代表の石松さんと手作り看板

取材日	平成30年8月11日(土)	参加者数	18名
取材メモ	昔の歌でもなんとなく口ずさめて、歌って良いなあと感じさせてくれる場所です！		
取材者	齊藤愛実		
問合せ先	ふれあいサロン マハロ 石松彰子 ☎3859-5139		

株式会社ピーアーク足立

公園花壇をきれいにして良いまちづくり

公園の花壇に季節の花を植えています

「株式会社ピーアーク足立」は、絆のあんしん協力機関に登録し、地域の中で楽しい存在になりたい、皆さまと手を取り合って出来ることから地域に貢献していきたいという想いで活動をしています。

スタッフの方々は積極的に地域に出向き、竹の塚のまちづくりに参画中。週に1回店舗周りや公園内のゴミ拾いをしたり、公園の花壇管理を足立区に申請し季節ごとの花苗植えを行ったりしています。

今回は3回目となる花苗植えの日におじゃましました。商店街を通る人にも声をかけ、飛び入り参加も大歓迎！多くの花苗を一生懸命植えています。



老若男女、頑張っています！

花壇お手入れ隊大募集！

花苗植えには近隣のスポーツジムの方や地域包括支援センターから声をかけた住民の方も参加していました。参加している方は意外にも男性が多く、土を掘り、花苗を植える姿はとても素敵でした！

そんな花いっぱいの花壇ですが、水やりや雑草の処理が課題です。ここはぜひ地域の皆さんの力を借りたいところ。花壇のお手入れをしてくださる方、お気軽にご連絡ください！

また、「株式会社ピーアーク足立」の方から「公園内にゴミが増え、週に1回のゴミ拾いでは追いつかない。せっかくのキレイな花壇が・・・」とのお話もありました。花壇と公園が地域のできいになれば、竹の塚のまちももっと魅力的になるのではないかと感じました。

※現在、毎週土曜日 14時から公園の掃除を黄色いジャンパーを着たスタッフの方々が行っています。もし見かけた際はお気軽にお声をかけてください。(雨天中止です)



花壇いっぱいに植えることができました

取材日	平成30年9月5日(水)	参加者数	13名
取材メモ	このような取組みは継続が大切であると感じました。		
取材者	齊藤愛実		
問合せ先	株式会社ピーアーク足立 ☎5851-7770		

ほつか☆色あそび実行委員会

想いと人をつなぐ 色あそびコラボ展

地域のそれぞれのつながりをシャッフル

平成30年9月19日（水）から22日（土）の4日間、「六町ミュージアム・フローラ」にて「ほつか 色あそびコラボ展」が開催されました。このイベントは色をテーマに今ある地域のつながりを混ぜて、人々の想いをつなぎ、さらにつながりを深めることが目的です。

実行委員会では多分野の団体が集って会議を重ね、当日は「“がきんちょ”ファミリー」、「NPO 法人スマイル・エイジングパートナー」、「NPO法人足立さくら会」、保塚地域学習センターのサークル、地域包括支援センター—ツ家から多くの作品が出展されました。また、川崎市で行われた「かわさき色輪っかつなぎ」の作品も飾られました。

同時に、願いや想いを書いた色付きの短冊を輪っかにしてつなぐワークショップも開催され、地域の人々の願いがひとつにつながりました。



地域を知るきっかけになるイベント



来場者は延べ250名程で、中には初めて「六町ミュージアム・フローラ」に足を踏み入れた人も。出展団体名を見て、「この施設はどこにあるの？近くに住んでいるけど知らなかった！」という声も聞かれました。

作品の出展を通して、保塚周辺地域の施設や団体を多くの人に知ってもらえる機会となりました。また、人、もの、想いが交わり、また新たな地域のつながりが生まれました。このつながりがさらに広がり、

地域全体でまちづくりに取り組めたら良いと思います。

取材日	平成30年9月22日（土）	参加者数	212名
取材メモ	今回は第1回目。次回以降の開催は…！？乞うご期待です。		
取材者	齊藤愛実		
問合せ先	一般社団法人 あだち子ども支援ネット事務局 ☎090-3590-3894		

都立城北特別支援学校（中学部・高等部）

誰もが輝く運動会

最後の運動会は大盛り上がり！

都立城北特別支援学校は、2020年4月に都立南花畑特別支援学校と統合し、都立南花畑学園特別支援学校（仮称）になります。そのため、城北特別支援学校としての運動会は今年度で最後となります。

また、運動会といえば屋外をイメージしますが、重度障がい（主に肢体不自由）のある児童・生徒が多数のため、体調が天候に左右されたり、雨天時の対応の問題もあり、体育館での開催が通例になっているそうです。

生徒達も最後の運動会ということもあり気合が入っていました。生徒達は、紅白に分かれそれぞれのカチューシャやポンポンなどの飾りを身に着け、各々の車いすで続々と入場。司会も先生ではなく、生徒会による司会です。障がいがあってもできることは、生徒達でという思いが伝わってきました。



一人ひとりのハイライト



プログラムは障がいに応じて活躍できるよう、事前に生徒それぞれに見合う道具が準備されました。中でも、四肢マヒのある生徒がモーター内臓の小型バイクのスイッチを口で操作し、バイクに自身の車いすを引かせて移動する手段には驚きました。さらに、「ランプ」と呼ばれる1mから2m弱の大きさの滑り台からボールを目標に落とす方法（四肢重度機能障がい者のために考案された「ポッチャ」というパラリンピック競技と同様）によるプログラムも特徴的で、手指が動かせれば参加できます。どんなに重度の障がいがあっても、創意工夫によって運動会に参加できることを証明してくれていました。ハン

デと共に笑顔で取り組む生徒の陰には、保護者や先生方の支えがあってこそ。それだけに、運動会で生徒から保護者や先生方に対して、感謝状を手渡す場面は感動的でした。まさに生徒や保護者、先生方の力を総動員した運動会と言えます。こうして最後となる運動会は、北山校長の「頑張った自分への拍手」というエールから続く、大きな喝采と拍手で幕を閉じました。

取材日	平成30年10月13日(金)	参加者数	生徒、保護者、先生方等多数
取材メモ	生徒数と同等以上の介助者や先生の支援・協力や、PTAによるカフェ運営など、多くの支えがある運動会でした。		
取材者	矢作祐太郎、橋本孝子		
問い合わせ	都立城北特別支援学校 ☎3883-7271		

花畑地域学習センター×足立区社会福祉協議会

「人生 100 年時代を生きる！」花畑エリアで地域デビュー

活動デビューとなる講座をめざして

「人生 100 年時代。定年退職後も 3~40 年の長い人生をどう過ごすか？」が大きなテーマとなっています。花畑地域学習センターでは、シニア世代が様々な地域活動に参加することで生き生き過ごせるように「花畑地域デビュー講座」を開催しています。企画、運営は足立区社会福祉協議会が協力して今年で 4 年目を迎えました。

今年度は講義や体操など 4 回の講座と、1 日活動体験のメニューを用意して、これから何か始めたい人の背中を押せるような構成になっています。



「入門編」は元シルバー人材センター副会長の内藤さんによる「生涯現役大作戦」

リピーターから活動デビューへ

参加者の中に昨年の受講後に活動に至らなかったものの、今年度も参加して下さった方がいらっしゃいました。彼女は、今年は 1 日活動体験の花畑地域学習センター「ふれあいまつり」のイベントボランティアに参加されました。受付で来場者へパンフレットを渡したり人数を数えたり。本当は 1 日だけのはずでしたが、「人手が足りないみたいだから、明日も来るわ」とおっしゃっていただきました。



「ふれあいまつり」1 日体験ボランティアに参加した武藤さん(左)

講座はこのあと「活躍編」「出発編」を実施しました。活躍編では、趣味やボランティア、地域、仕事など各方面で活躍している皆さんの体験報告をして頂き、大好評でした。

この講座を企画した花畑地域学習センターの内村副所長は、「この講座を開始して 4 年。少しずつ成果が出てきたように感じます。これからも参加する皆さんの地域デビューへのきっかけになるように講座を準備していきたいと思います。」と話してくださいました。

取材日	ふれあいまつり…平成 30 年 11 月 3 日(土)	参加者数	講座延参加者数:78 名
取材メモ	初めての経験はきっと勇気がいることだと思います。私たちもその背中を押せるお役に少しでも立てたなら、素晴らしいな、と思いました。		
取材者	花本洋子		
問合せ先	地域福祉課 ☎6807-2460		

保木間周辺地域 ふれあいサロン

サロンスタッフの交流、情報交換会

サロンが続々増えています

それぞれの地域でたくさんのふれあいサロンがありますが、保木間の地域でもサロンが増えました。サロンを始めて10年を超えるサロンもあれば、今年立ち上がった新しいサロンもあり、新しいサロンはまだ不安でいっぱいのようなようです。

そこで、保木間周辺地域の6つのサロン（「和楽会」「お喜楽サロン」「ひだまり」「原ことぶきサロン」「スマイルサロン」「サロン公社」）が集まり、「地域包括支援センター保木間」の職員も招いてサロンスタッフの交流会を実施しました。

うちのサロンの自慢は・・・

交流会の前半には、各サロンに活動内容の紹介をしていただきました。ぬりえなどの作品をお持ちいただいたサロンもあり、皆さん興味津々です！

その後はグループに分かれて、役割分担の仕方や集客方法など様々な話題で盛り上がりました。「スタッフが変わらないことに一番感謝している」「おしゃべりだけでは間が持たない…」「参加する人に好きなことをしてもらえば良い」といった声があり、新しいサロンのスタッフには励ましの言葉がかけられるなど、良い交流となりました。

今回の交流会では、互いのサロンを知る機会になったことはもちろん、新しいサロンにとっては他のサロンのやり方を学べる機会となり、長いサロンも経験を披露することでモチベーションの向上につながったように感じました。

熱い想いのスタッフがたくさんいます。ぜひお近くのサロンにお立ち寄りください！

取材日	平成30年11月20日（火）	参加者数	17名
取材メモ	「今度見学しに行きたい！」という声もあり、交流が深まった瞬間でした。		
取材者	齊藤愛実		
問合せ先	地域福祉課 ☎6807-2460		



各サロンの活動内容を紹介中



ぬりえの作品を皆さんで大絶賛！

足立区社会福祉協議会 地域福祉研究委員会

見つけた！地域の支え合い～地域福祉活動フォーラム～

活動を知るために地域に飛び出しました

「地域福祉研究委員会」は、地域の民生・児童委員、町会・自治会、地域福祉活動を進める団体の方々が委員となり、地域課題の把握や活動の推進について話し合いを行っています。平成30年度は、委員が活動する地域ごとに5グループに分かれ、各委員の地元の活動を知るために夏から秋にかけて見学を行いました。

11月の研究委員会では、「特別養護老人ホーム花畑あすか苑」地域交流スペースにて、活動の見学報告会を行いました。

知ることは地域活動の第一歩

前半は基調講演として、「花畑あすか苑」雨宮施設長から地域に向けた施設の取り組みを紹介して頂きました。

周辺施設と連携したイベントの開催や多様なボランティアの受け入れなどを通して、地域に根差した施設づくりをめざしていることが報告されました。

後半は研究委員会の5グループによる活動見学の報告を行いました（右表参照）。

委員の皆さんからは「身近な地域だが、見学するまでこんな活動があることを知らなかった」「サロンの活動を見て、自分の地域でも立ち上げたいと思った」などの感想が寄せられました。

地域の活動を知ることが、活動の推進の第一歩だということが改めて感じられました。

この報告会は社会福祉協議会の地域福祉活動フォーラムとして、花畑周辺の民生・児童委員や絆のあんしん協力員、サロン運営スタッフなどにもご来場頂きました。社会福祉協議会では、地域福祉活動計画に基づき、今後は各地域でのフォーラム開催を通じた地域の住民や団体のネットワークづくりに取り組みます。



社協の地区担当職員と委員が協力して発表を行いました

【報告内容】

- 中部: ふれあいサロン「梅田クラブ」他
- 千住: あげぼの会 他
- 東部: 六ツ木診療所
- 西部: 西新井地域ふれあいサロン交流会
- 北部: ふれあいサロン「サロン桑袋」

取材日	平成30年11月28日(水)	参加者数	59名
取材メモ	互いの活動を知ることで、委員同士のつながりも深まったように感じられました。		
取材者	花本洋子		
問合せ先	地域福祉課 ☎6807-2460		

行こう！伊興☆みんなのひろば 企画ミーティングメンバー



行こう！伊興☆みんなのひろば

みんな地域とつながりたい！はじめの一步

1月19日（土）の午前10時30分から午後2時、地域活動の活発な地“伊興・西竹の塚地域”にある教会で大規模イベントが開催されました。社会福祉協議会（社協）と地域で活動するふれあいサロン、子ども食堂や福祉施設などがタッグを組み、区や自治会も巻き込んだ楽しい一日となりました。

近所での開催ということもあり、子どもたちと一緒に潜入取材をしてきました！

まず驚いたのが、地元の年配の方の多さです。チラシは回覧・掲示され、地域をあげて盛り上げています。プログラムにも工夫が凝らされ、懐メロライブや踊り、ベビーヨガや工作など、年配の方も子育て世代の方も楽しめる工夫が随所にありました。お昼には、「あだち子ども食堂」さんの焼きそばセットがあり、世代を問わずおしゃべりしながら召し上がる人の姿が見られました。



コミュニティ Koen さん
教会で親子のひろばを開催

みんなが考える、つくる地域

2階の体育館では、長男はカローリング（カーリングに3つの車輪がついています）、次男はウッドハウス作りに夢中。普段なかなか出会えない地域の大人と一緒に何かを行うことは子どもたちにとって良い体験ですし、何より親にとって、子どもを一步ひいて見つめられる貴重な経験でした。近すぎて見落としている良い部分を再発見！地域みんなで子育てするってこんな感じ？

社協の地域担当職員さんは、「イベントはゴールではなく、この地域を皆が考えつくっていくスタート」と仰っていました。この伊興地域が新しい地縁のモデルケースとなるのでは？と地元の間人である私はわくわくしました！



ウッドハウスづくり
釘を一本も使いません

取材日	平成31年1月19日（土）	参加者数	180名
取材メモ	快く取材を受けてくださった皆様、ありがとうございました。		
取材者	ささえあいリポーター 鶴橋恵美		
問合せ先	地域福祉課 ☎6807-2460		

東京都×東京ボランティア・市民活動センター×アクションプラン推進会議

愛媛コミュニティ支援プログラム派遣報告

平成 30 年 7 月の豪雨災害では、西日本を中心に各地で大きな被害が発生しました。愛媛県宇和島市も、土砂災害や浸水被害が起こり、多くの市民が被災しました。宇和島市吉田町では、活発だったサロン活動がすべてストップし、地域の方が集まる場が失われてしまいました。

今回、足立区社会福祉協議会の職員として、10月10日～10月16日の1週間、地域の方が集まる場をつくるサロン活動の支援プログラムに参加してきました。このプログラムは、10月から11月までの2カ月間に及び、宇和島市社会福祉協議会の協力のもと、都内の社協や生協の職員が集まって実施されました。



災害支援から復興支援へ

被災して3カ月経ちますが、現地を見て回ると土嚢が道のあちこちに積み重ねられ、少し山奥に入れば土砂で潰れた家が見受けられるなど、被害の大きさを肌で感じました。地域の集会所や住民が住む家屋は浸水被害を受け、未だ建て直し中の所が多く見られました。浸水被害により、戸建てに住む人は未だ2階で生活し、中には市街地に引っ越した人もいたようでした。このような状況だからこそ、顔と顔を合わせて地域住民同士が交流し、地域のつながりを実感できる場の必要性を感じました。



ふれあい喫茶活動を通して

プログラムに参加した期間では、5カ所でふれあい喫茶を開催しました。ふれあい喫茶は、当プログラムに参加したメンバーだけでなく、地域の支援団体や個人ボランティアの方々の協力のもと運営されました。また、地元の生協にも協力いただき、物資提供、ふれあい喫茶のチラシの配付などをしてくださいました。

実際にサロンに参加した住民からは、「サロン活動への参加を待ち望んでいた」「3 カ月ぶりにみんなと再会できた」といった声が聞かれました。地域住民同士のつながりも強く、サロン活動が活発であった地域だったからこそ、ふれあい喫茶を通して地域のサロン活動再開のきっかけになればと思います。



プログラムに参加して

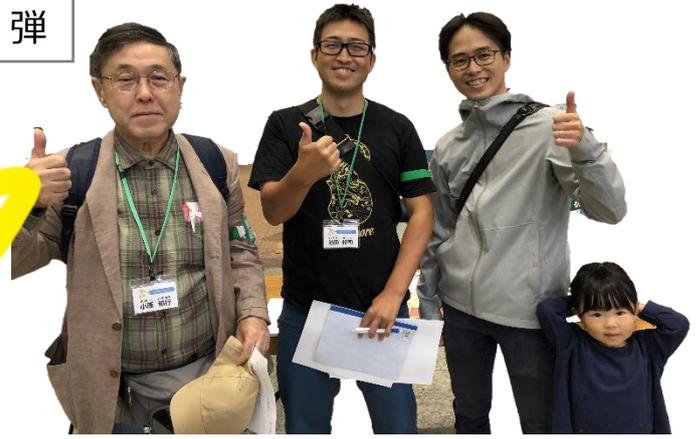
今回のプログラムへの参加を通して、平時の防災に対する意識と、地域の方々や関係団体と日頃から顔を合わせてつながりある関係を作っていくことの大切さを学びました。また、いざ東京で大規模な災害が起きた時の社会福祉協議会の役割は何かということを考えさせられる機会となりました。

このプログラムは、11 月末まで続き、足立区社会福祉協議会から再度職員が参加しました。

足立区でも 11 月 11 日に、総合防災訓練が開催されました。いざ、東京が被災した時のための良い準備につながる機会になればと思います。

取材メモ	地元住民の「被災して感じたこと。他人ごとが自分ごと。こんなに辛いとは思わなかった」という言葉が印象的でした。いざ東京が被災した時に、足立区社会福祉協議会の職員として何ができるのか、これからも模索していきたいと思います。
取材者	高橋亮
問合せ先	地域福祉課 ☎6807-2460

あだちNPO フェスティバル 2018 取材しました



10月13日(土)に足立区役所本庁舎にて、今年で9回目となる「あだちNPOフェスティバル」が開催されました。本フェスティバルは、NPOという名称がまだ広く知られていなかった時代に、NPO活動への理解を広め、少しでも参加していただける方を募ろうと、小規模の展示会から始まりました。

NPOの認知が広がると共に参加者は増え、今年は86団体が出展、延べ3,200名来場と、大きなイベントに成長しました。

屋外中央広場、アトリウムでの出展、庁舎ホールにおけるステージ発表が行われた他、地元企業から提供された豪華景品が当たるスタンプラリーも好評で、多くの方が参加されていました。

今回このNPOフェスティバルを足立区社会福祉協議会に登録しているささえあいりポーターの3名がそれぞれの視点で取材し、一つの記事にまとめました。



取材者：池田 裕司

これからも一緒に畑仕事をする仲間を集いながら、野菜作りの楽しさを伝えて欲しいと思いました。

地産地消で野菜作り！足立区内の小学校で畑を借り、和気あいあいと仲間たちと農作業を楽しむ。それがスマイル農園・食談会です。
代表の大城さんは退職後に何か始めたいと思っていました。好きな事は各地の「道の駅」で地域の食材を使ったグルメ巡り。そこで地域の活動講座を受講し、農業に興味を持ちました。足立区は今も農家が多く、小松菜や千住葱などの特産物があります。今は団塊世代の気の合う仲間たちと農作業を行い、採れたての野菜を地域の人や子ども達に提供することが楽しみの一つだそうです。

スマイル農園・食談会

しよくだんかい



読み語りボランティア

読み語りボランティアは、0歳から3歳までの乳幼児向けに絵本の読み語りを行っている団体です。区内5つの保健センターを中心に年間160回程度の読み語りをを行い、その参加人数は毎年約1万2千人に上ります。それらの読み語りを50名以上のボランティアで行っています。活動を始めて今年で15年になりますが、昨年は文部科学大臣賞を受賞し、国からもその活動が認められました。読み語りボランティアの目的は、「読み語り」が、ただ本の内容を分からせるということではなく、親子の触れ合いのツール、コミュニケーション、何より親子が共に楽しむことができる素敵な時間であることを伝えること」とのことでした。

取材に同行した私の娘2人は、なんと1時間も読み語りに集中していました。曜日や時間の都合で参加できない団体の活動にも、NPO フェスティバルではその日に沢山体験できるのが、とても良いと思いました。団体の方と直接話すことで、その活動の趣旨や思いなども聞くことができる良い機会となりました。



取材者：黒川 康敬

庁舎ホール、ホワイエでの発表・体験

区役所2階の庁舎ホールにてNPO団体等の活動紹介・発表が行われました。

ミリバールスリーのミニコンサートから始まり、毎年恒例の「あだち五色桜マラソン」の告知、足立区演劇連盟の発表、コミュニティ英語教育ラボのアカペラ演奏、おたまじゃくしくラブの合唱、カルビーのおやつ教室、パステルスイッチの朗読演劇と続きます。悠悠ホルンさんのライブでは不登校支援のお話があり「もうひとつの卒業式」という歌が演奏されました。終演の演目は古今亭駿菊さんの落語でした。

また、庁舎ホール前のホワイエでは、協賛企業による展示・販売や、デコパージュでオリジナル石鹸を作る体験などが催されました。家族、お子さん連れのお客さんが多く、にぎわっていました。



足立区演劇連盟の山下芳子さんが率いる「狂言まいまい倶楽部」の演じる狂言と、「竹の塚劇団」の歌うわらべうた、どちらもホールに元気な楽しい声を響かせてくれました。足立区のNPO、諸団体の活動の広がりや日頃の努力を感じさせてくれる一日でした。



取材者：小原 和行

用語集

絆のあんしんネットワーク（連絡会）

孤立ゼロプロジェクトの一環として、地域住民や協力機関が連携して高齢者が抱える問題を早期に発見し必要なサービスにつなげることで、住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりを目指すネットワークです。お互いに少しずつ“ちから”を出し合っただけで無理のない範囲で助け合っただけで生きていく、緩やかなつながりです。

絆のあんしんネットワーク連絡会は、ネットワークの連携強化のため、各地域包括支援センターごとに概ね年6回開催しています。

地域ケア会議

地域包括支援センター等が主催する高齢者個人に対する支援の充実と、それを支える社会基盤の整備とを同時に進めていく、地域包括ケアシステムの実現に向けた会議です。①地域支援ネットワークの構築、②高齢者の自立支援に資するケアマネジメント支援、③地域課題の把握などを行っています。

地域福祉研究委員会

足立区社協定款第32条に基づく委員会です。「地域福祉課題の把握に関すること」、「小地域における地域福祉活動の推進に関すること」、「地域福祉活動計画の評価に関すること」等について、意見等を具申する機関です。民生・児童委員協議会、町会・自治会連合会を主体とした委員により構成されています。

地域包括ケアシステム

団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される仕組みのことです。

地域福祉活動フォーラム

交流の場で地域の取り組みを発表したり、地域課題を共に考えられるよう、町会・自治会やボランティアグループなど多様な団体が中心となって地域住民に向けて開催されるものです。勉強会型や交流会型などがあります。

ふれあいサロン

地域の高齢者や障がい者、子育て中の方の仲間づくりや閉じこもりを防止するために地域住民が主体となっただけで行う地域交流の場です。特定の会員によるサークルなどではなく、近隣の地域住民に開かれた活動です。足立区社協では、立ち上げ支援・運営支援を行っています。

第2次足立区地域福祉活動計画
平成30年度 事業報告・ささえあい活動事例集

発行年月 2019年 9月

発行 社会福祉法人足立区社会福祉協議会

編集 社会福祉法人足立区社会福祉協議会
基幹地域包括支援センター 地域福祉課
〒121-0816 東京都足立区梅島二丁目1番20号
(NTT梅島ビル1階：足立消防署横)
電話：03-6807-2460 Fax：03-5681-3374

誰もが安心して暮らせる地域づくりを



ささえあい活動のご相談は、 社会福祉協議会へ

社会福祉法人 足立区社会福祉協議会
基幹地域包括支援センター 地域福祉課
(梅島二丁目1番20号 NTT 梅島ビル1階)

電話 03-6807-2460 Fax 03-5681-3374